

2024年11月12日

PGF生命  
 ( プルデンシャルジブラルタファイナンシャル )  
 生命保険株式会社

## PGF生命、『おとなの親子』の生活調査 2024 を実施 -40～69 歳の男女を対象とした親子関係に関するアンケート-

PGF生命（プルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命保険株式会社、代表取締役社長兼CEO 得丸博充）は、2024年9月10日（火）～9月11日（水）の2日間、70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女を対象に『おとなの親子』の生活調査2024をインターネットリサーチで実施し、有効サンプル2,000名の集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

人生100年時代を迎え、成人後の親子関係もより長く続いていきます。このたびPGF生命は、内閣府が定めた「家族の日」（2024年11月17日（日））にちなみ、高齢の親がいる子どもに『おとなの親子』の生活について聞いたところ、多様な生活実態や生活意識が垣間見える結果となりました。

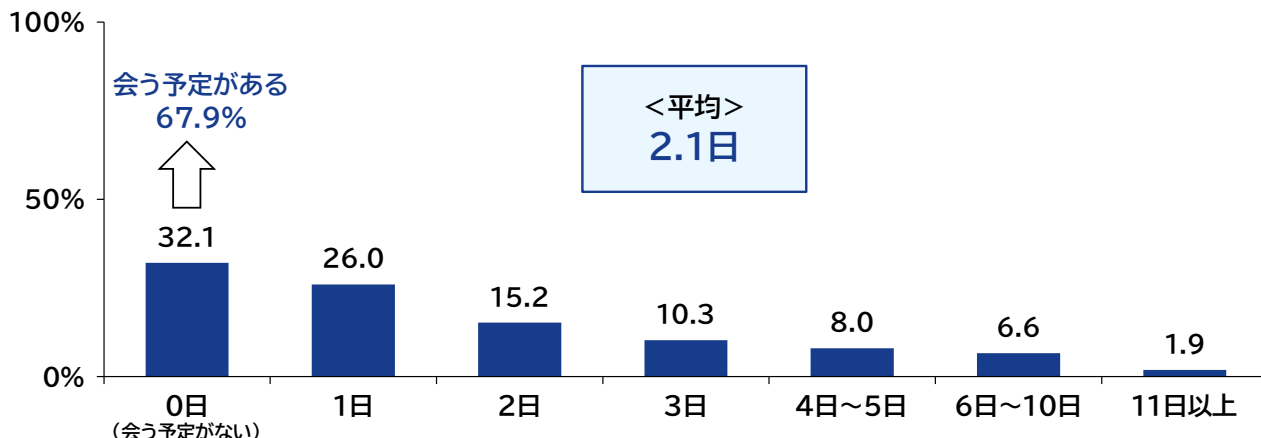


### トピックス1 : コロナ前の盆暮れ正月の生活風景が定着 「今年の年末年始に親に会う予定がある」別居親子の68%

親と離れて暮らしていても、盆暮れ正月など長期休暇を取得しやすい時期には、帰郷して家族と過ごす人が多いと思います。では、年末年始に親子一緒に過ごす人はどのくらいいるのでしょうか。

別居親子に、今年の年末年始に親に会う予定はあるかを聞いたところ、「会う予定はない」は32.1%となり、会う予定がある人の割合は67.9%、顔を合わせる日数の平均は2.1日でした。2023年5月のコロナ5類移行から2回目の年末年始を迎えるなか、コロナ前の生活風景が定着している実状を垣間見ることができます。

◆今年の年末年始に親に会う予定はあるか（自由回答形式：数値／顔を合わせる日数は\_\_日くらい）  
 対象：別居親子(1,551名)

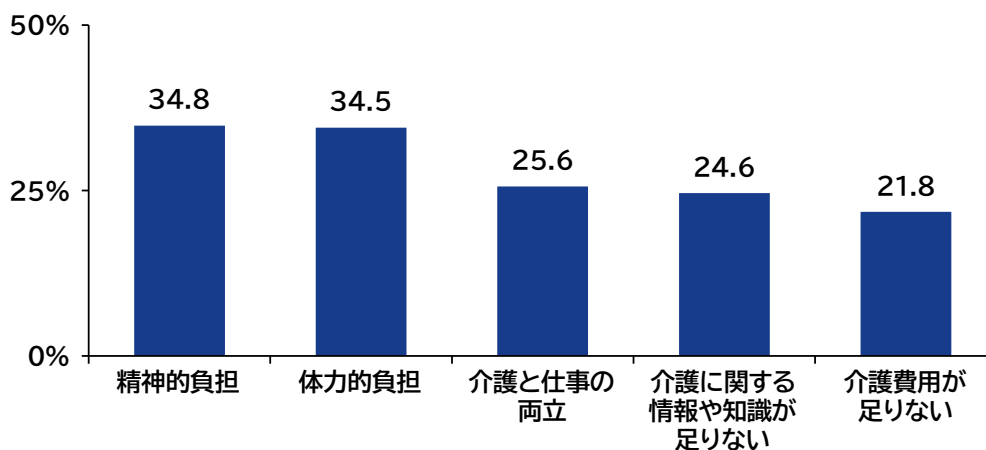


## トピックス2 : 人生100年時代 親の介護で不安なこと TOP2は「精神的負担」「体力的負担」

4人に1人が「介護と仕事の両立」、5人に1人が「介護費用が足りない」が不安と回答

親の介護について、不安を感じることを聞いたところ、「精神的負担」と「体力的負担」が特に高くなり、「介護と仕事の両立」、「介護に関する情報や知識が足りない」、「介護費用が足りない」が続きました。社会保障制度の脆弱性が指摘されるなか人生100年時代を迎え、今後、親の介護の負担に対する不安や自身の老後に対する不安は年々増大していくのではないのでしょうか。

◆親の介護について、不安を感じること（複数回答形式）※上位5位までを表示



## トピックス3 : 大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたこと

「自分たちが頼られる存在になった」「距離が狭まった」「親の生き方を尊敬できるようになった」

『おとなの親子』の関係には、年齢を重ねるにつれ関係性が変化することもしばしばみられます。

大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人に、どのように変わったかを聞いたところ、「自分たちが頼られる存在になった」「親のサポートを受ける側からサポートする側になった」「守られる立場から支え合う立場になった」「やや距離が狭まった気がする」「親の生き方を尊敬できるようになった」「大人同士の話し合いができるようになった」「いろいろ相談できるようになった」といった回答がみられました。精神的距離感の変化や、相互扶助の関係への変化、親に対する感謝や尊敬の気持ちの高まりなどは、おとなの親子という関係性を表わす特徴的な変化ではないのでしょうか。

◆大人になってから、“親との関係性”がどのように変わったか（自由回答形式）※抜粋して表示  
対象:大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人(287名)

自分たちが頼られる存在になった  
親のサポートを受ける側からサポートする側になった  
守られる立場から支え合う立場になった  
若い頃は喧嘩が絶えなかったが歳をとって仲が良くなった  
やや距離が狭まった気がする  
子どもが生まれてから親のありがたみがわかった  
親の生き方を尊敬できるようになった  
大人同士の話し合いができるようになった  
反対意見を言えるようになった  
いろいろ相談できるようになった

次頁には、調査内容項目をハイライトで公開！さらに、5頁目からは、調査の結果詳細を図解解説しています。『おとなの親子』の生活意識や実態をチェックしてみてください。

## <調査結果ハイライト>

### 第1章：『おとなの親子』のコミュニケーション実態

- 『おとなの親子』の居住状況 「同居親子」は21%、「別居親子」は78%
- おとなの別居親子のコミュニケーション実態 12%が「昨年、1回も親に会いに行かなかった」と回答
- 別居の親とのコミュニケーション頻度は男性より女性で高い傾向  
女性の「メール・LINE」「電話」の頻度（平均）は男性と比べて年間15日以上多い結果に
- コロナ前の盆暮れ正月の生活風景が定着 「今年の年末年始に親に会う予定がある」別居親子の68%
- 「喧嘩するほど仲がいい」って本当？ おとなの親子の喧嘩の頻度 同居親子は別居親子の10倍超

### 第2章：『おとなの親子』のマネー事情

- つつい先送りにしがちなお金の話 おとなの親子でもお金のことは話題にしにくい？  
「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割、  
「親の収入や生活費を把握していない」6割強、  
「自分の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えていない」8割
- 困ったときの親頼み 「親から金銭面の支援を受けたことがある」約2人に1人  
親からの支援を受けたお金の平均は「結婚費用」140万円、「生活費」133万円、  
「不動産購入時の頭金」517万円、「子どもの教育資金」187万円、「自動車購入時の頭金」150万円
- 「親に金銭面の支援をしたことがある」25%、九州・沖縄では38%  
親孝行に使ったお金の平均は「生活費」150万円、「旅行費」38万円、「医療費」46万円、  
「遊興費・交際費」28万円、「冠婚葬祭費」33万円、  
「住宅購入・リフォーム・転居の費用」255万円、「介護費」67万円、  
「住宅ローン・借入金の返済」486万円

### 第3章：『おとなの親子』の贈与・相続

- 「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」約2割
- 「親から生前贈与を受けたことがある」40代・50代の子では約1割
- 相続対策の状況 「まだしていない」86%、「既にしている」は14%にとどまる
- 相続に関する不安要素はさまざま  
「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の1割半、  
「親の遺言の内容を知っている」40代の子では1割未満にとどまる、  
「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」4割、  
「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」2割半

### 第4章：『おとなの親子』の将来への不安

- 「実家じまいを経験した」1割弱、「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の5割半
- 「親の住み替えを経験した」1割強、60代では2割、  
「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の3割半
- 「介護離職を経験した」1割未満、「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の5割強
- 人生100年時代 親の介護で不安なこと TOP2は「精神的負担」「体力的負担」  
4人に1人が「介護と仕事の両立」、5人に1人が「介護費用が足りない」が不安と回答
- 「親の老後の生活破綻を経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の3割
- 長生きリスクに備えて親が準備していること  
1位「貯蓄・資金の確保」2位「資産運用・投資」3位「年金」「保険加入」
- 親の今後やサポートについて不安やリスクを感じること 1位「健康状態・病気」2位「認知症」

## 第5章：おとなの親子関係あれこれ

■親から独立したと感じた年齢 「20歳～24歳」が31%

「独立していないと感じている」は15%、同居親子では36%

独立していないと感じている理由 「何かと頼ってしまう」「未だに心配をかけている」など

■大人になってから親に初めてプレゼントしたもの 1位「洋服」2位「旅行」3位「食事」

■最も印象に残っている、大人になってからの親との思い出は？

「温泉旅行へ行ってお互いの理解が深まった」「結婚式で初めて見た父親の涙」など

■子の半数以上が「年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがある」と回答

年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うこと

1位「性格」2位「生活習慣」3位「食の好みや好きな味付け」、

「口ぐせ」や「怒り口調」など言葉遣いに関することも上位に

■大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたこと

「自分たちが頼られる存在になった」「距離が狭まった」「親の生き方を尊敬できるようになった」

■親の尊敬できるところ TOP3 「真面目・誠実」「優しい」「自分を育ててくれた・子どもを育てた」

■親の見習いたくないところ TOP3 「頑固」「わがまま・自分勝手」「怒りっぽい」

■これからしたい親孝行 TOP3 「会いに行く・顔を見せる」「旅行をする」「話をする・話を聞く」

■理想の『おとなの親子』だと思う芸能人親子は？

2年連続1位は「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」、2位は「関根 勤さん&関根 麻里さん」

理由は「お互いに尊重しているように見える」「友達のように仲が良い」など

■“理想の親子”だと思うキャラクターが登場するアニメは？

1位「サザエさん」2位「クレヨンしんちゃん」3位「ドラゴンボール」

理由は「言いたいことを言い合える関係」「口喧嘩をしつつも、お互いのことを思いやっている」など

### ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、  
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。

第1章：『おとなの親子』のコミュニケーション実態

■ 『おとなの親子』の居住状況 「同居親子」は21%、「別居親子」は78%

70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女2,000名（全回答者）に、親子間のコミュニケーションについて質問しました。

まず、全回答者（2,000名）に、親との居住状況を聞いたところ、「同居親子」は21.3%、「別居親子」は77.6%、「その他」は1.2%となりました（※）。

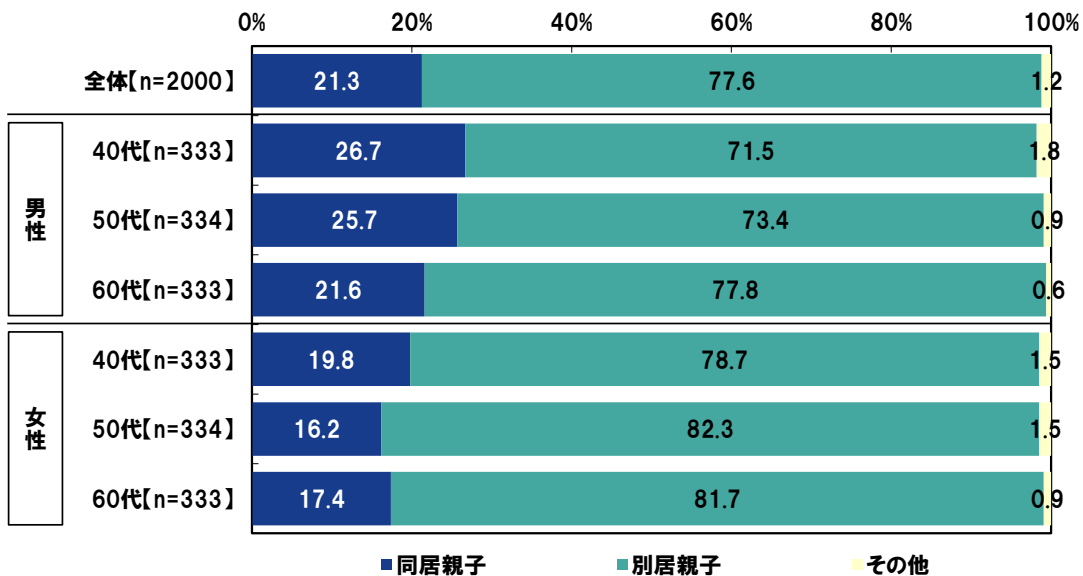
男女・年代別にみると、男性では年代が上がるにつれ「同居親子」（40代26.7%、50代25.7%、60代21.6%）の割合が下降、「別居親子」（40代71.5%、50代73.4%、60代77.8%）の割合が上昇する傾向がみられました。

※同居親子：別居の親がいない同居している親子。親の一方がいない場合を含む。

別居親子：同居の親がいない別居している親子。親の一方がいない場合を含む。

その他：同居の親と別居の親がいる場合

◆親との居住状況（単一回答結果より算出）



■おとなの別居親子のコミュニケーション実態

12%が「昨年、1回も親に会いに行かなかった」と回答

■別居の親とのコミュニケーション頻度は男性より女性で高い傾向

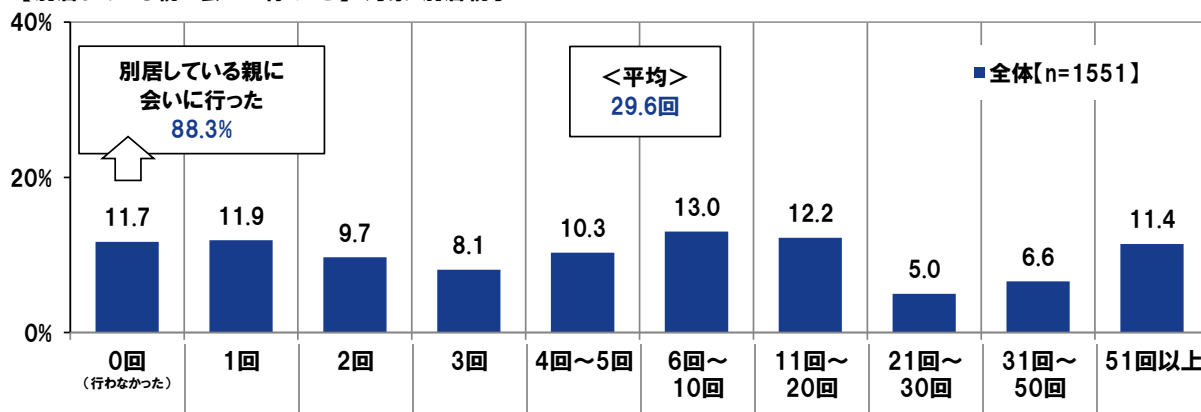
女性の「メール・LINE」「電話」の頻度（平均）は男性と比べて年間15日以上多い結果に

次に、昨年、親子で顔を合わせた頻度や連絡を取り合った頻度について質問しました。

別居親子（1,551名）に、昨年、別居している親に会いに行った頻度を聞いたところ、平均は29.6回、「0回（行わなかった）」は11.7%となり、別居している親に会いに行った人の割合は88.3%でした。

◆昨年に親とどのくらいの頻度で行ったか（自由回答形式：数値／年に\_\_回くらい）

【別居している親に会いに行くこと】対象：別居親子

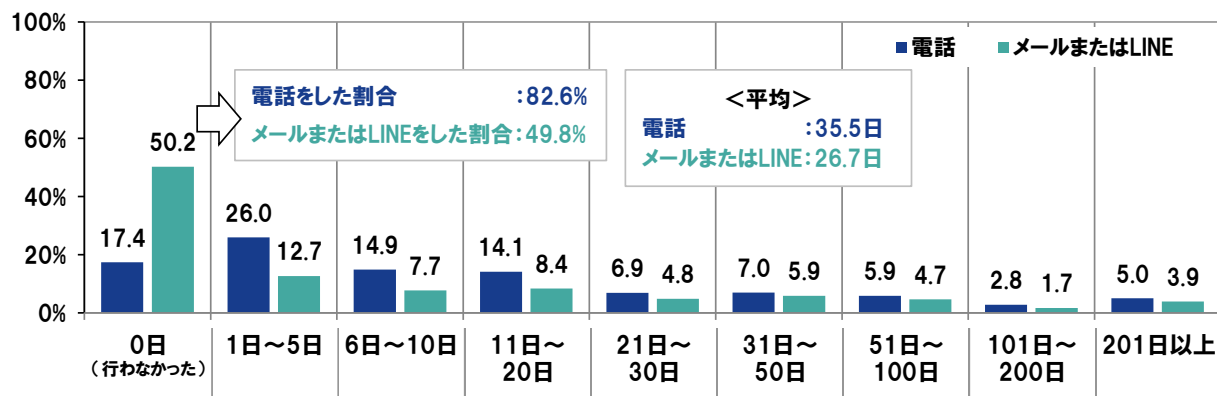


【電話】【メールまたはLINE】によるコミュニケーションについて、昨年に親とどのくらいの頻度で行ったかを聞いたところ、【電話】では平均35.5日、「0日（行わなかった）」は17.4%となり、【メールまたはLINE】では平均26.7日、「0日（行わなかった）」は50.2%となりました。

【電話】と【メールまたはLINE】を比較すると、平均は【メールまたはLINE】（26.7日）と比べて【電話】（35.5日）のほうが8.8日多く、行わなかった人の割合は【メールまたはLINE】（50.2%）と比べて【電話】（17.4%）のほうが32.8ポイント低くなりました。『おとなの親子』の間のコミュニケーションにおいては、メールやLINEではなく電話が主なツールとなっているようです。

◆昨年に親とどのくらいの頻度で行ったか（各自由回答形式：数値／年に\_\_日くらい）

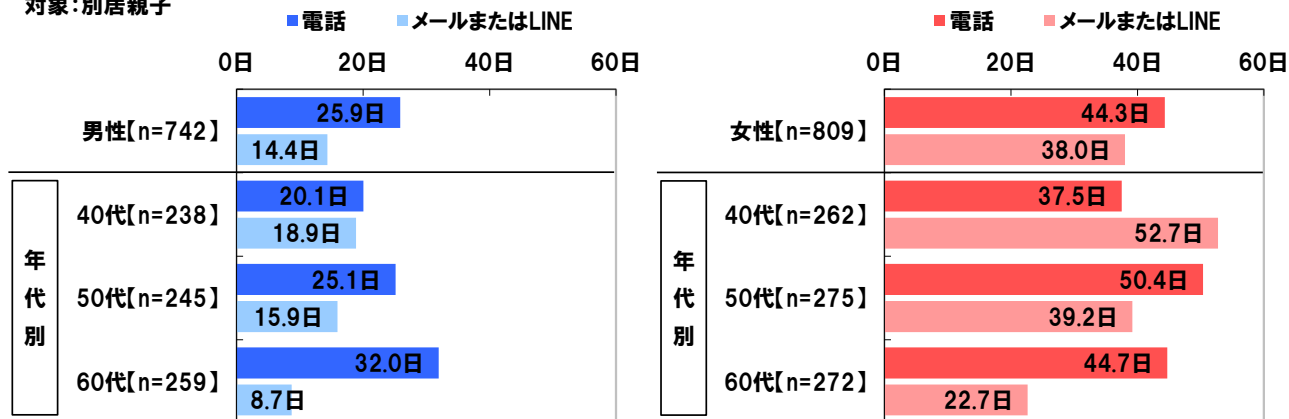
対象：別居親子[n=1551]



男女・年代別にみると、平均日数は、【電話】では男性 25.9 日、女性 44.3 日、【メールまたは LINE】では男性 14.4 日、女性 38.0 日と、どちらも男性と比べて女性のほうが 15 日以上多くなりました。また、40 代女性では【電話】(37.5 日) と比べて【メールまたは LINE】(52.7 日) のほうが 15 日以上多くなりました。

◆昨年に親と行った頻度(平均日数)

対象:別居親子

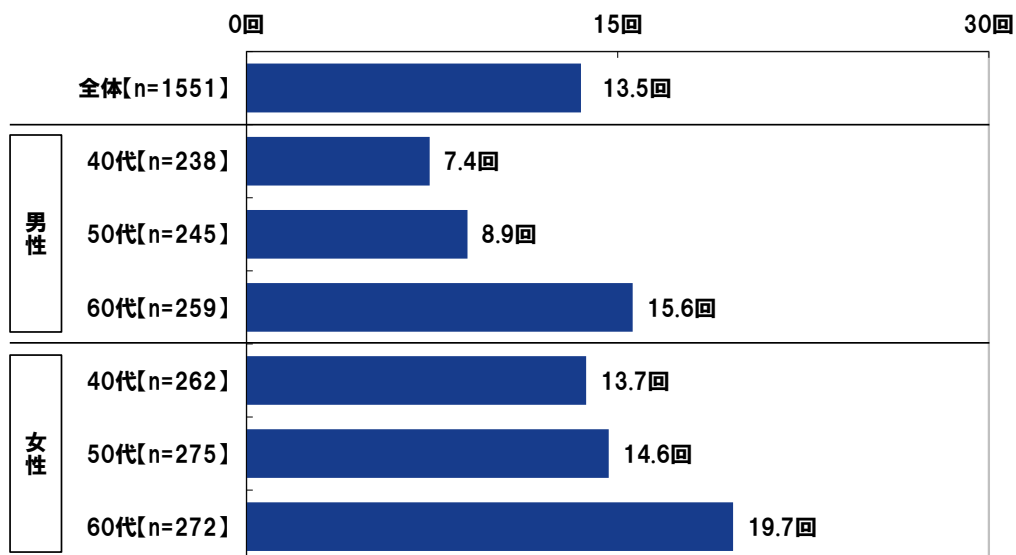


【一緒に食事】では、平均は 13.5 回となりました。

男女・年代別にみると、平均が最も多くなったのは、男性・女性ともに 60 代 (男性 15.6 回、女性 19.7 回) でした。

◆昨年に親とどのくらいの頻度で行ったか (自由回答形式: 数値/年に\_\_回くらい) ※平均を表示

【一緒に食事】 対象:別居親子



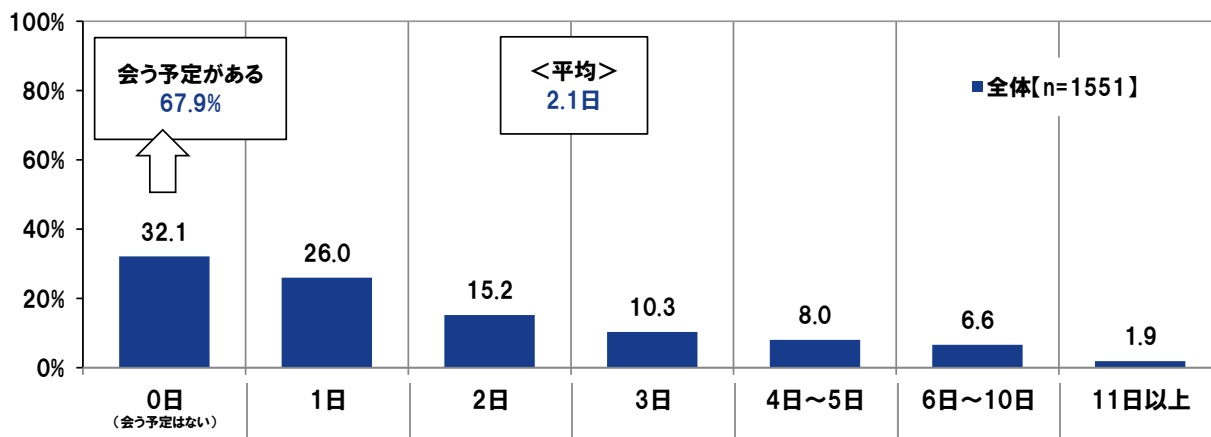


■ コロナ前の盆暮れ正月の生活風景が定着 「今年の年末年始に親に会う予定がある」 別居親子の 68%

また、別居親子（1,551名）に、今年の年末年始に親に会う予定はあるかを聞いたところ、「会う予定はない」は32.1%となり、会う予定がある人の割合は67.9%、顔を合わせる日数の平均は2.1日でした。

◆ 今年の年末年始に親に会う予定はあるか（自由回答形式：数値／顔を合わせる日数は\_\_日くらい）

対象：別居親子



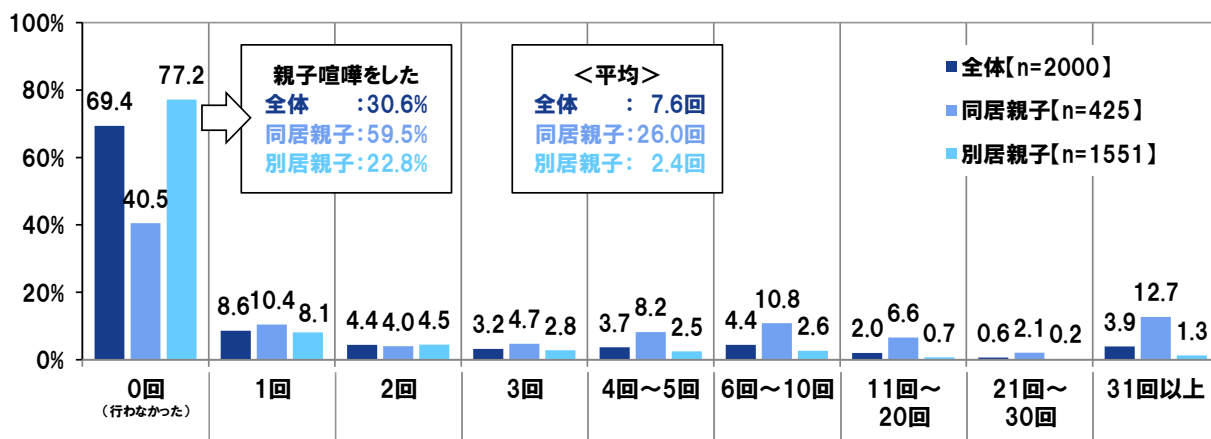
■ 「喧嘩するほど仲がいい」って本当？ おとなの親子の喧嘩の頻度 同居親子は別居親子の10倍超

全回答者（2,000名）に、昨年にどのくらいの頻度で親子喧嘩したかを聞いたところ、平均は7.6回、「0回（行わなかった）」は69.4%となり、親子喧嘩をした人の割合は30.6%でした。

同居親子についてみると、平均は26.0回、「0回（行わなかった）」は40.5%となり、親子喧嘩をした人の割合は59.5%でした。他方、別居親子についてみると、平均は2.4回、「0回（行わなかった）」は77.2%となり、親子喧嘩をした人の割合は22.8%でした。喧嘩の頻度が多いほど仲が悪いというわけではないと考えますが、一緒に住んで毎日のように顔を合わせている親子の場合、別居している親子と比べて、意見の相違やぶつかり合いが生じる機会が多いのではないのでしょうか。

◆ 昨年に親とどのくらいの頻度で行ったか（自由回答形式：数値／年に\_\_回くらい）

【親子喧嘩】



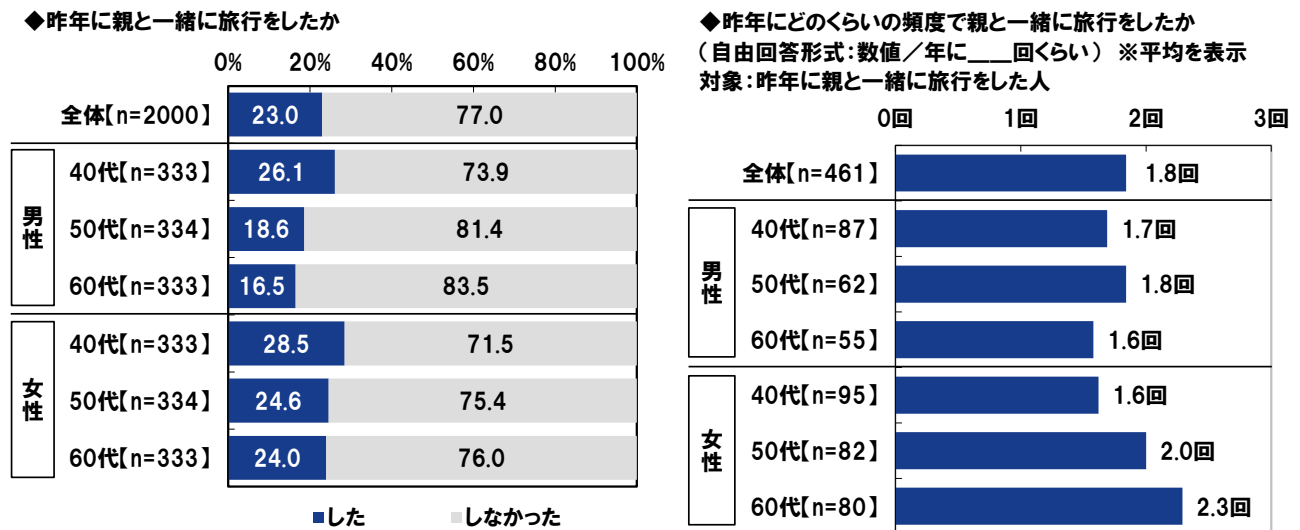


「昨年に親と一緒に旅行をしたか」では、「した」は23.0%、「しなかった」は77.0%となりました。

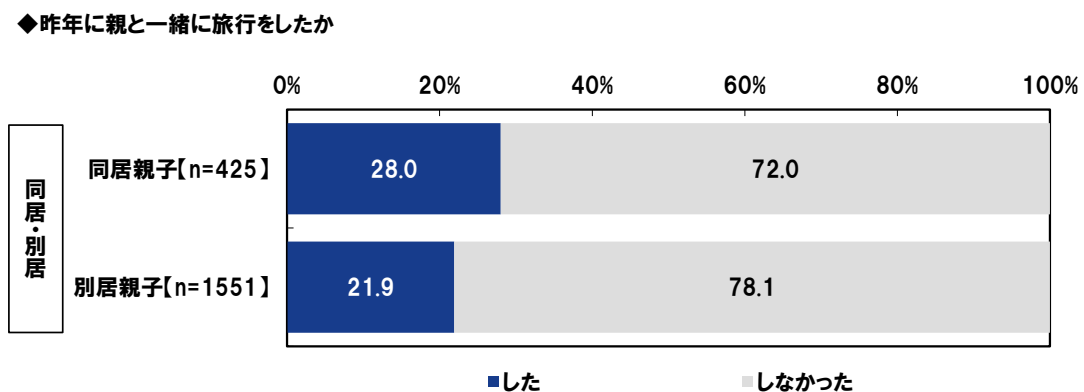
年代別にみると、「した」と回答した人の割合は男性・女性ともに下の年代ほど高くなる傾向がみられ、男性40代では26.1%、女性40代では28.5%でした。

昨年に親と一緒に旅行をした人（461名）に、どのくらいの頻度で旅行をしたかを聞いたところ、平均は1.8回でした。

男女・年代別にみると、一緒に旅行をした回数の平均は、男性では50代（1.8回）、女性では60代（2.3回）が最も多くなりました。



ここで、同居親子と別居親子についてみると、昨年に親と一緒に旅行をした人の割合は、同居親子では28.0%、別居親子では21.9%となりました。同居親子のほうが親子喧嘩の頻度は高いものの、一緒に旅行した人の割合も高いことがわかりました。



## 第2章：『おとなの親子』のマネー事情

■ ついつい先送りにしがちなお金の話 おとなの親子でもお金のことは話題にしにくい？

「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割、

「親の収入や生活費を把握していない」6割強、

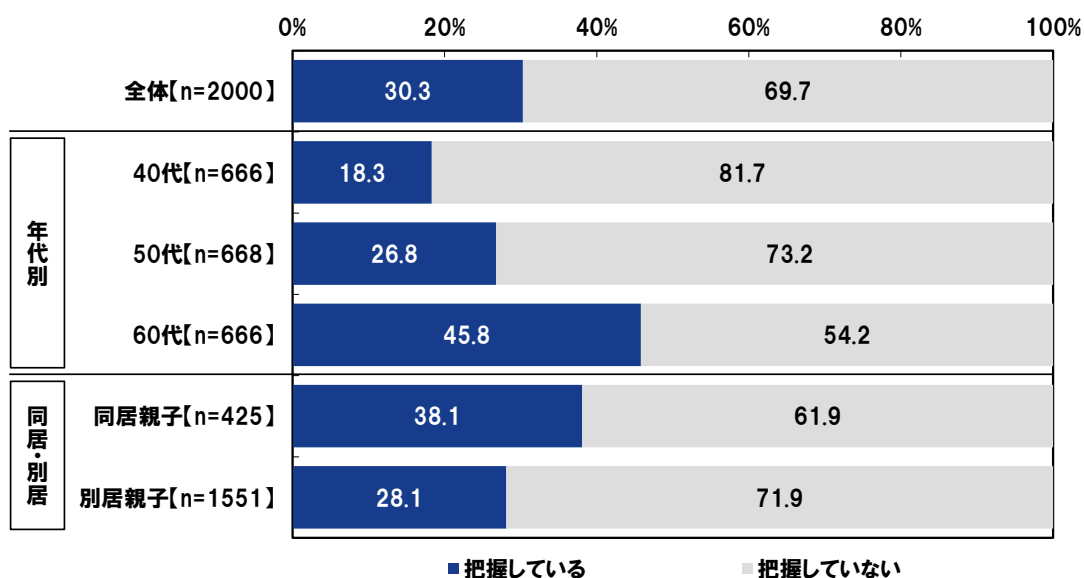
「自分の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えていない」8割

全回答者（2,000名）に、親の資産の内容（種類や資産額）を把握しているかを聞いたところ、「把握している」は30.3%、「把握していない」は69.7%となりました。

年代別にみると、「把握していない」と回答した人の割合は40代81.7%、50代73.2%、60代54.2%と、若い年代ほど高くなる傾向がみられました。

同居親子・別居親子についてみると、「把握していない」と回答した人の割合は、同居親子では61.9%となった一方、別居親子では71.9%と、10.0ポイントの差がみられました。別居親子ではコミュニケーションが同居親子と比べて少ないため、資産についての情報共有が十分にできていないケースが多いのではないのでしょうか。

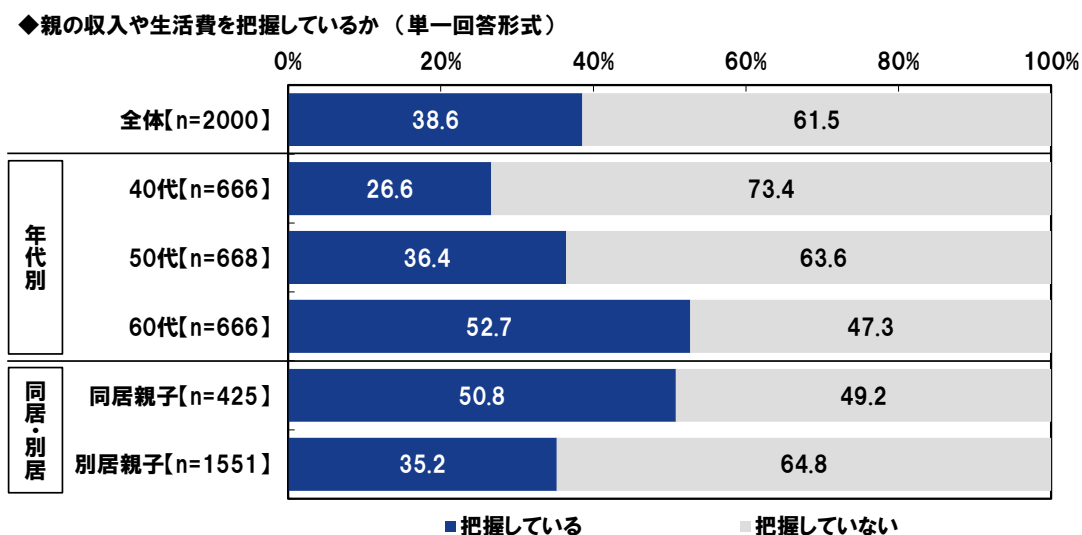
◆ 親の資産の内容(種類や資産額)を把握しているか (単一回答形式)



親の収入や生活費を把握しているかを聞いたところ、「把握している」は 38.6%、「把握していない」は 61.5%となりました。

年代別にみると、「把握していない」と回答した人の割合は若い年代ほど高くなる傾向がみられ、40代では 73.4%となりました。

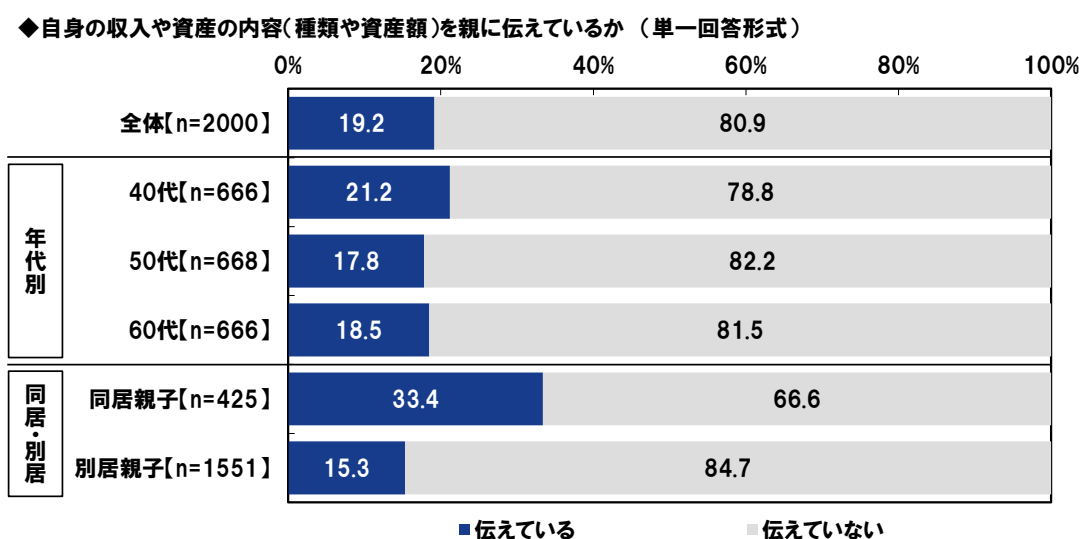
同居親子・別居親子についてみると、「把握していない」と回答した人の割合は、同居親子では 49.2%、別居親子では 64.8%と 15 ポイント以上の差が開きました。



また、自身の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えているかを聞いたところ、「伝えている」は 19.2%、「伝えていない」は 80.9%となりました。

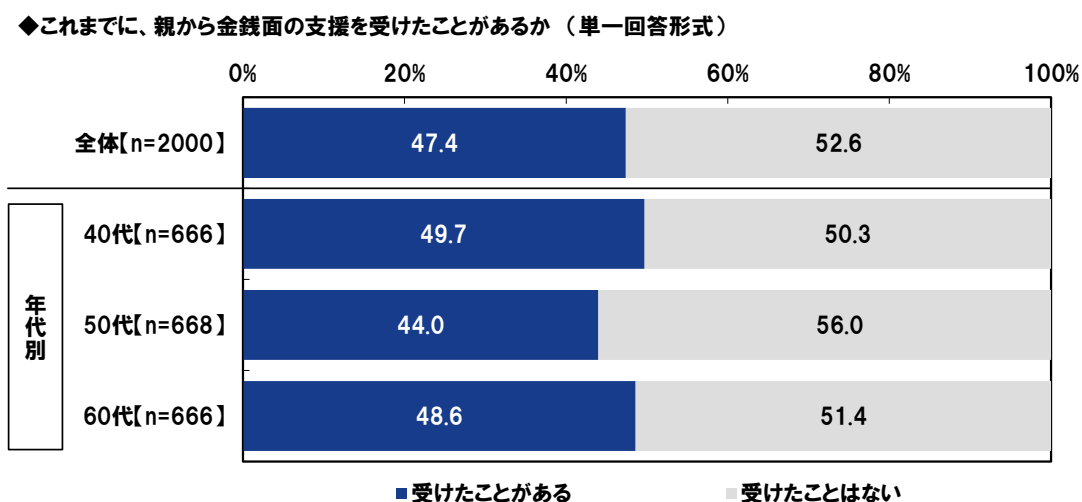
同居親子・別居親子についてみると、「伝えていない」と回答した人の割合は、同居親子では 66.6%、別居親子では 84.7%と 15 ポイント以上の差が開きました。

『おとなの親子』の間では、マネー事情についてお互いに情報共有していないケースが多く、その傾向は特に別居親子で顕著である実状が明らかとなりました。



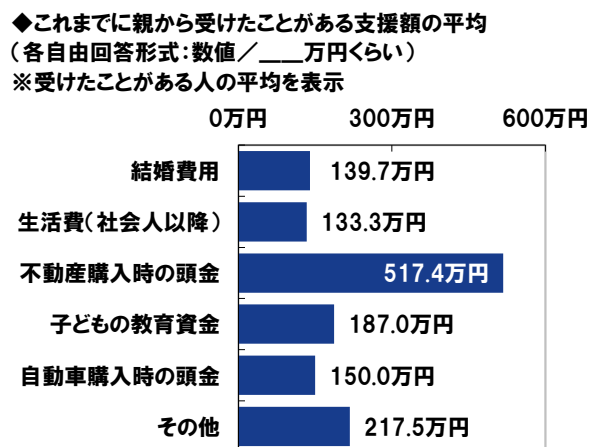
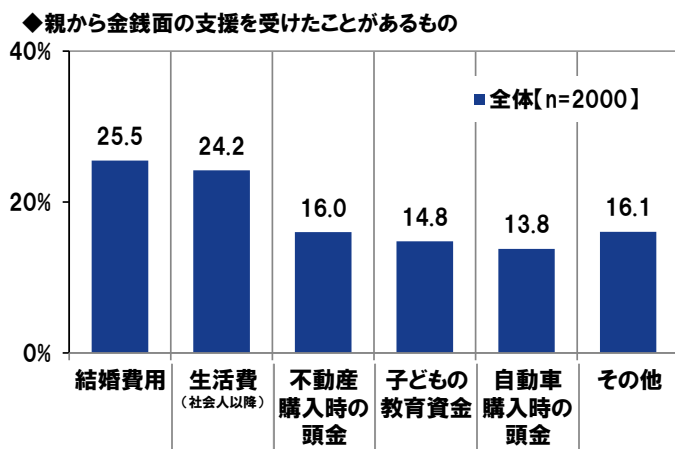
■困ったときの親頼み 「親から金銭面の支援を受けたことがある」約2人に1人  
 親からの支援を受けたお金の平均は「結婚費用」140万円、「生活費」133万円、  
 「不動産購入時の頭金」517万円、「子どもの教育資金」187万円、「自動車購入時の頭金」150万円  
 親子間の金銭面の支援について質問しました。

これまでに、親から金銭面の支援を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は47.4%、「受けたことはない」は52.6%となりました。



親から金銭面の支援を受けたことがあるものを聞いたところ、「結婚費用」（25.5%）が最も高くなり、「生活費（社会人以降）」（24.2%）、「不動産購入時の頭金」（16.0%）、「子どもの教育資金」（14.8%）、「自動車購入時の頭金」（13.8%）と続きました。

支援額の平均（受けたことがある人）をみると、「結婚費用」は139.7万円、「生活費（社会人以降）」は133.3万円、「不動産購入時の頭金」は517.4万円、「子どもの教育資金」は187.0万円、「自動車購入時の頭金」は150.0万円でした。

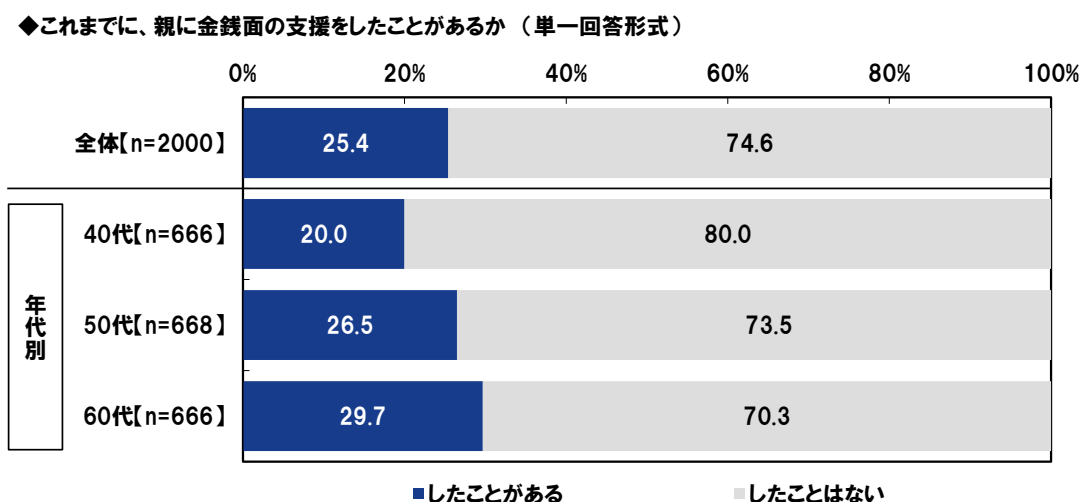


■「親に金銭面の支援をしたことがある」25%、九州・沖縄では38%

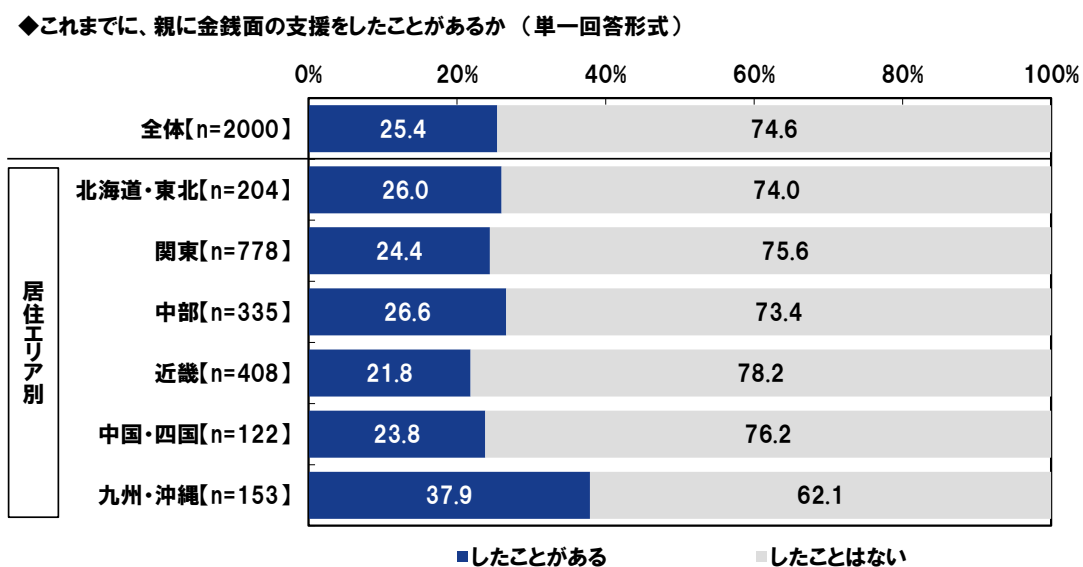
親孝行に使ったお金の平均は「生活費」150万円、「旅行費」38万円、「医療費」46万円、  
「遊興費・交際費」28万円、「冠婚葬祭費」33万円、  
「住宅購入・リフォーム・転居の費用」255万円、「介護費」67万円、  
「住宅ローン・借入金の返済」486万円

他方、これまでに、親に金銭面の支援をしたことがあるかを聞いたところ、「したことがある」は25.4%、「したことはない」は74.6%となりました。

年代別にみると、「したことがある」と回答した人の割合は、上の年代ほど高くなる傾向がみられ、60代では29.7%でした。



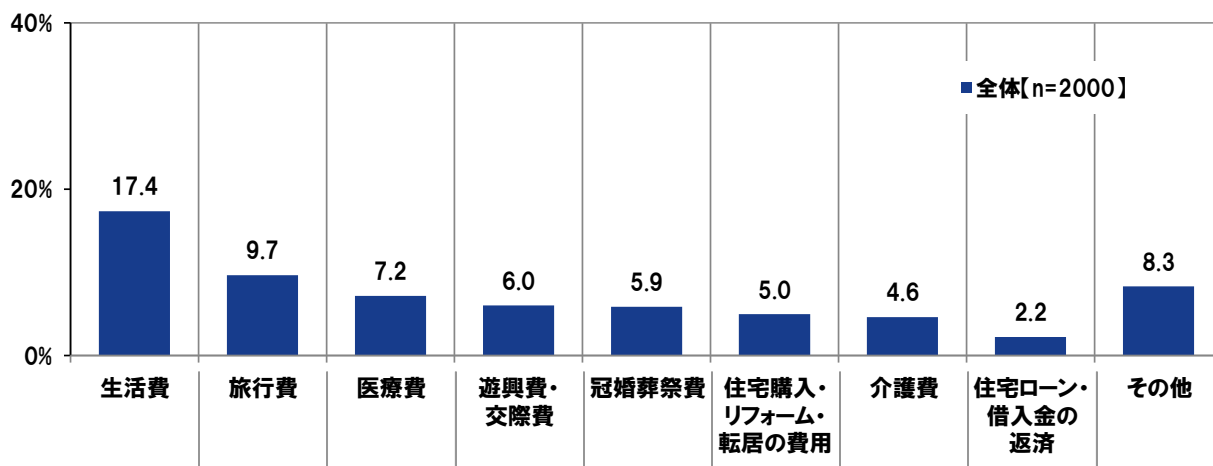
また、居住エリア別にみると、「したことがある」と回答した人の割合は、九州・沖縄では37.9%と、他のエリアと比べて10ポイント以上高くなりました。



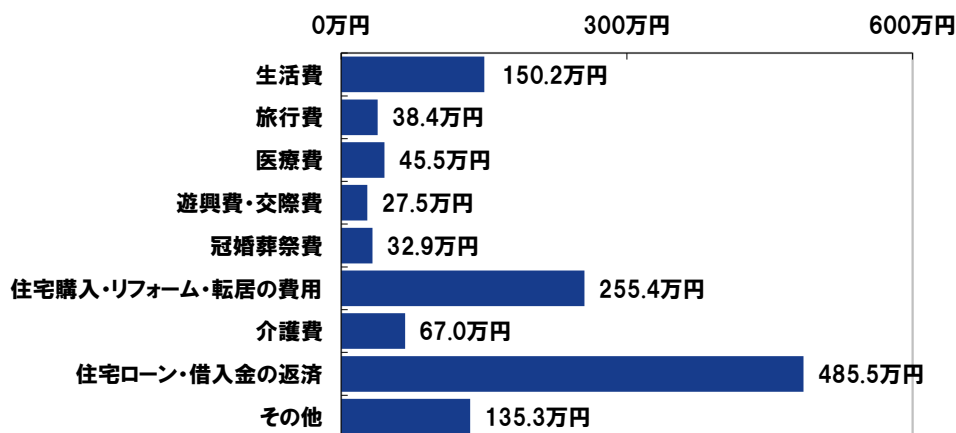
親に金銭面の支援をしたことがあるものを聞いたところ、「生活費」(17.4%)が最も高くなり、「旅行費」(9.7%)、「医療費」(7.2%)、「遊興費・交際費」(6.0%)、「冠婚葬祭費」(5.9%)と続きました。

支援額の平均(したことがある人)をみると、「生活費」は150.2万円、「旅行費」は38.4万円、「医療費」は45.5万円、「遊興費・交際費」は27.5万円、「冠婚葬祭費」は32.9万円、「住宅購入・リフォーム・転居の費用」は255.4万円、「介護費」は67.0万円、「住宅ローン・借入金の返済」は485.5万円でした。

◆親に金銭面の支援をしたことがあるもの



◆これまでに親にしたことがある支援額の平均 (各自由回答形式: 数値/ \_\_\_万円くらい)  
※したことがある人の平均を表示



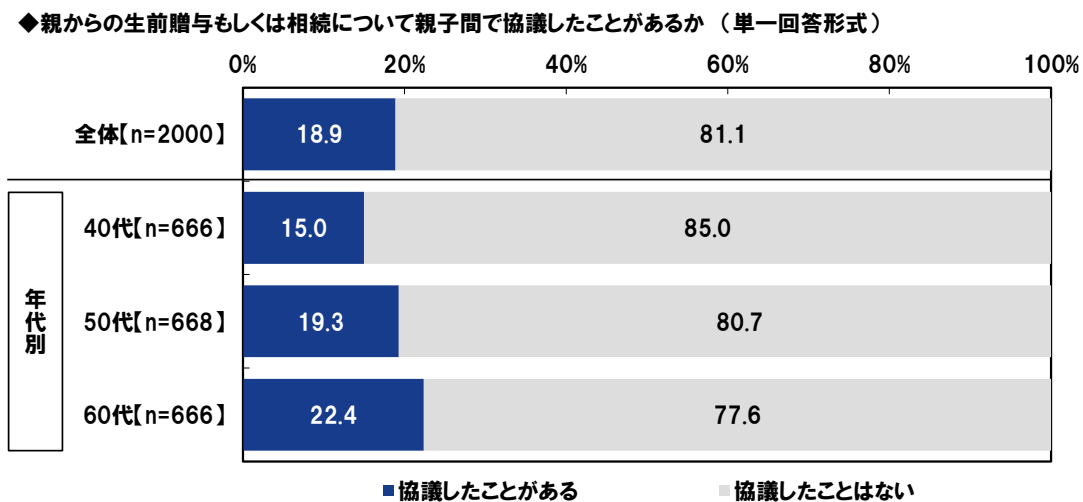
### 第3章：『おとなの親子』の贈与・相続

- 「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」 約2割
- 「親から生前贈与を受けたことがある」 40代・50代の子では約1割

親からの贈与や相続について質問しました。

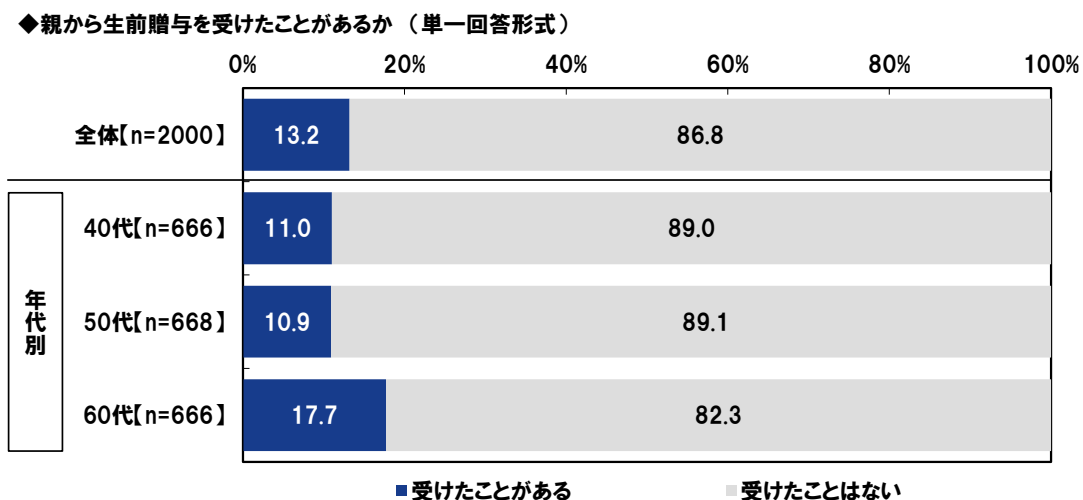
全回答者（2,000名）に、親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがあるかを聞いたところ、「協議したことがある」は18.9%、「協議したことはない」は81.1%となりました。

年代別にみると、「協議したことがある」と回答した人の割合は、40代15.0%、50代19.3%、60代22.4%と、生前贈与や相続対策の必要性を感じる人は年代が上がるにつれて増えるようです。



親から生前贈与を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は13.2%、「受けたことはない」は86.8%となりました。

年代別にみると、「受けたことがある」と回答した人の割合は、40代（11.0%）と50代（10.9%）では約1割にとどまりました。





■相続対策の状況 「まだしていない」86%、「既に行っている」は14%にとどまる

■相続に関する不安要素はさまざま

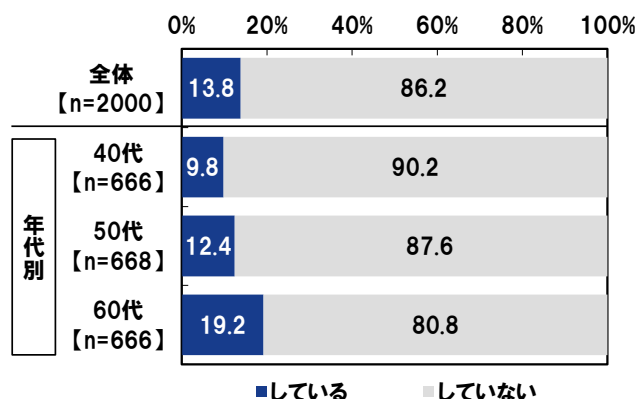
「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の1割半、  
 「親の遺言の内容を知っている」40代の子では1割未満にとどまる、  
 「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」4割、  
 「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」2割半

相続対策を既に行っているかを聞いたところ、「している」は13.8%、「していない」は86.2%となりました。大多数が相続対策に着手していない実状が明らかとなりました。

年代別にみると、「している」と回答した人の割合は、40代9.8%、50代12.4%、60代19.2%となりました。

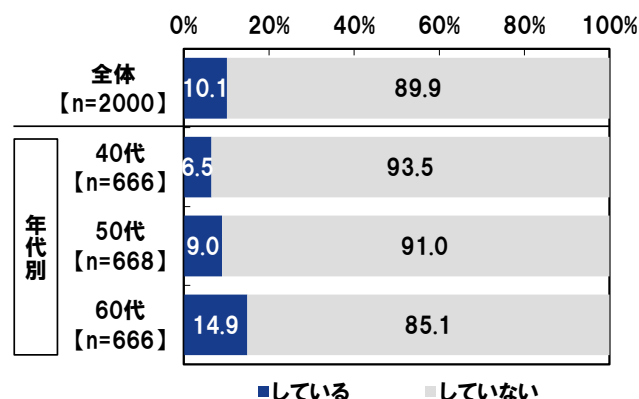
前回の調査結果と比較すると、「している」と回答した人の割合は、全体では3.7ポイントの上昇（前回調査10.1%→今回調査13.8%）となり、年代別では60代（前回調査14.9%→今回調査19.2%、4.3ポイント上昇）で上昇幅が大きくなりました。

◆相続対策を既に行っているか（単一回答形式）



【2023年調査】

◆相続対策を既に行っているか（単一回答形式）

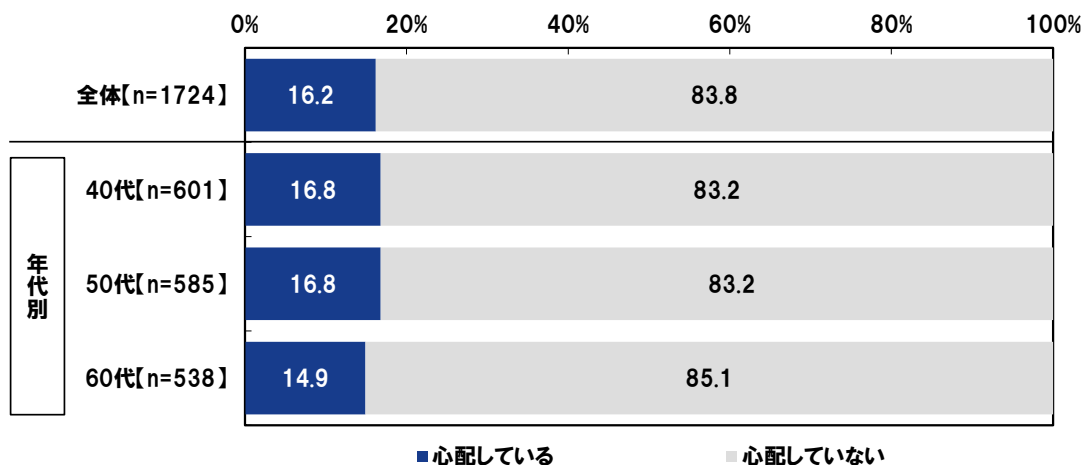


相続対策をしていない人（1,724名）に、争族（※）に陥ると心配しているかを聞いたところ、「心配している」は16.2%、「心配していない」は83.8%と、争族リスクを感じていない人が大多数を占める結果となりました。

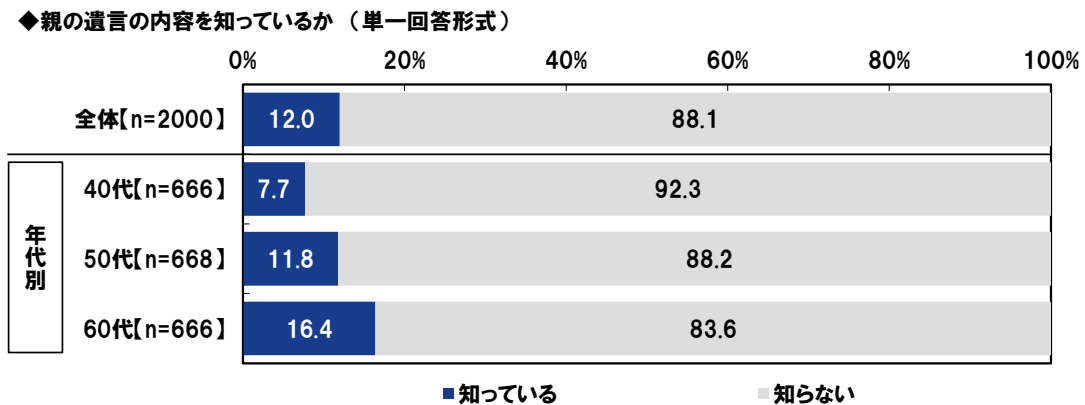
※遺産相続を巡り親族などの相続人同士が争うこと

◆争族に陥ると心配しているか（単一回答形式）

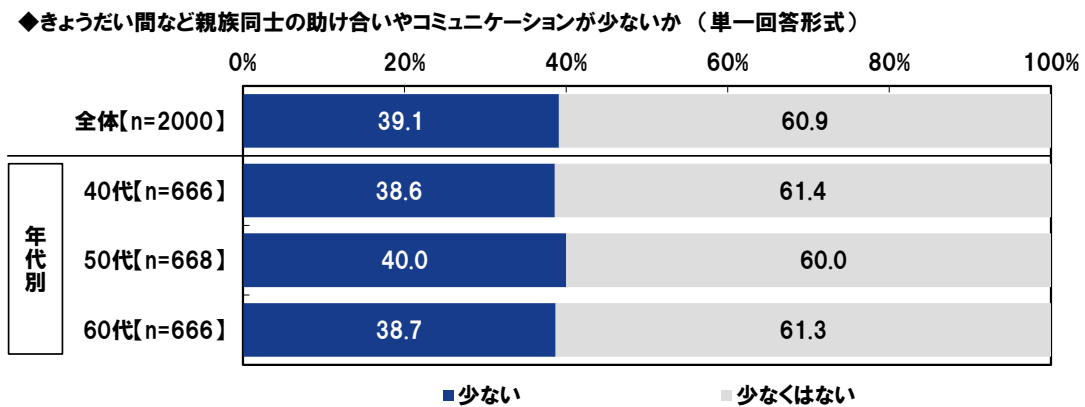
対象：相続対策をしていない人



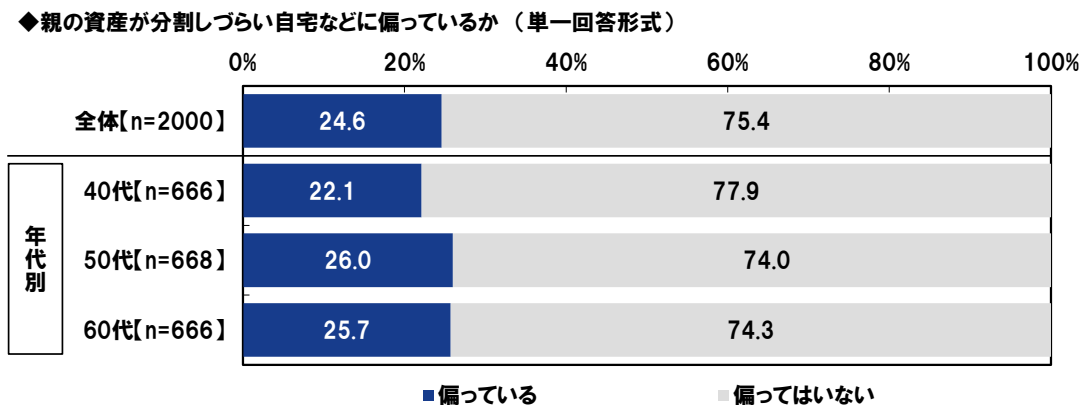
親の遺言の内容を知っているかを聞いたところ、「知っている」は 12.0%、「知らない」は 88.1%となり、年代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は 40代（7.7%）では 1割未満にとどまりました。



きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ないかを聞いたところ、「少ない」は 39.1%、「少なくはない」は 60.9%となりました。



親の資産が分割しづらい自宅などに偏っているかを聞いたところ、「偏っている」は 24.6%、「偏ってはいない」は 75.4%となりました。



相続の際に「争族」には陥らないと考えている人が多い一方で、親の遺言の内容を知らない、親族同士のコミュニケーションが少ない、分割しづらい資産に偏っているなど「争族」のおそれがある状況下の人は多いようです。

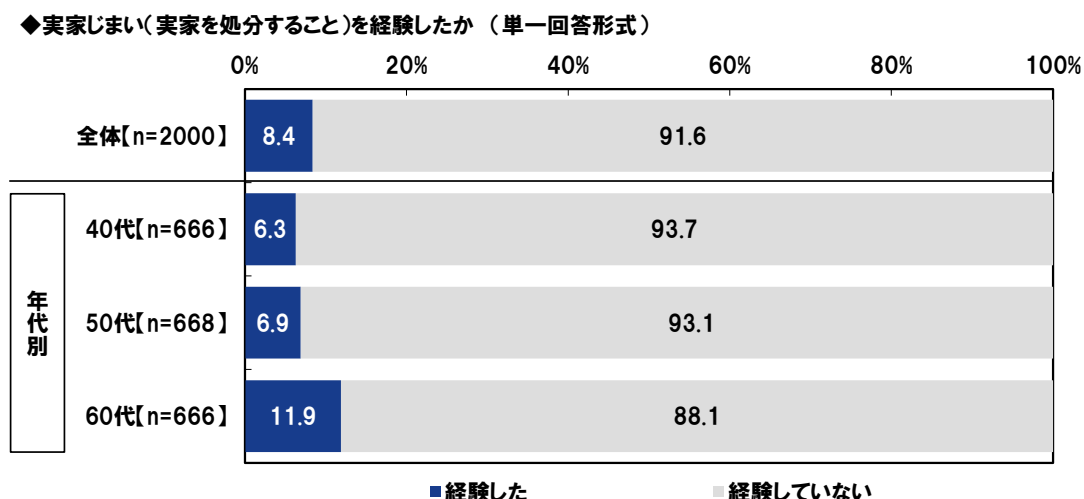
## 第4章：『おとなの親子』の将来への不安

■「実家じまいを経験した」1割弱、「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の5割半

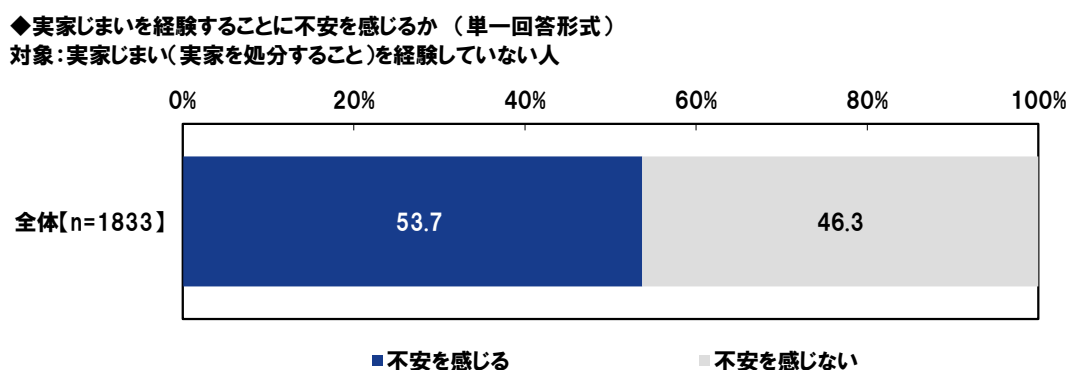
自身や親が経験する可能性があることについて、経験の有無や不安感の有無について質問しました。

全回答者（2,000名）に、実家じまい（実家を処分すること）を経験したかを聞いたところ、「経験した」は8.4%、「経験していない」は91.6%となりました。

年代別にみると、「経験した」と回答した人の割合は、40代（6.3%）と50代（6.9%）に比べて60代（11.9%）が高くなりました。



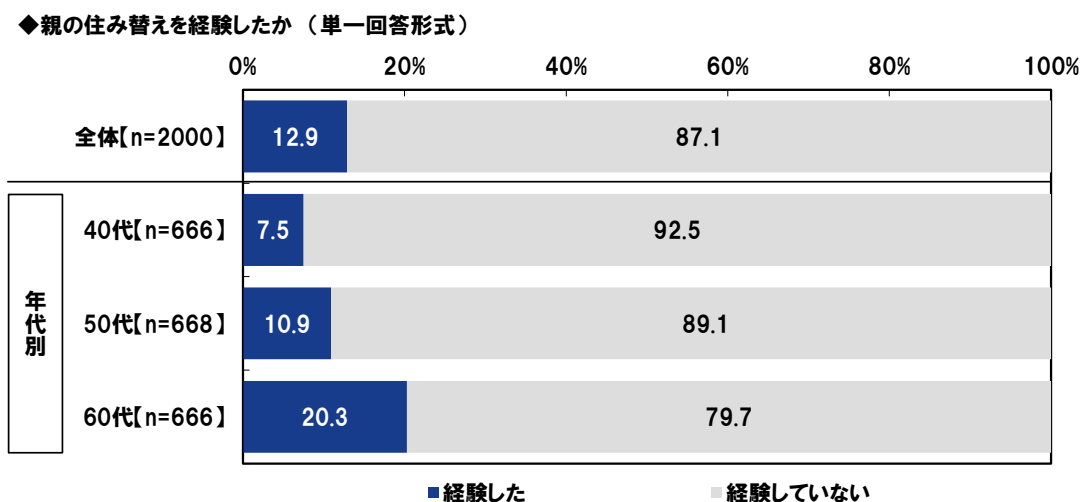
実家じまい（実家を処分すること）を経験していない人（1,833名）に、実家じまいを経験することに不安を感じるかを聞いたところ、「不安を感じる」は53.7%、「不安を感じない」は46.3%となりました。



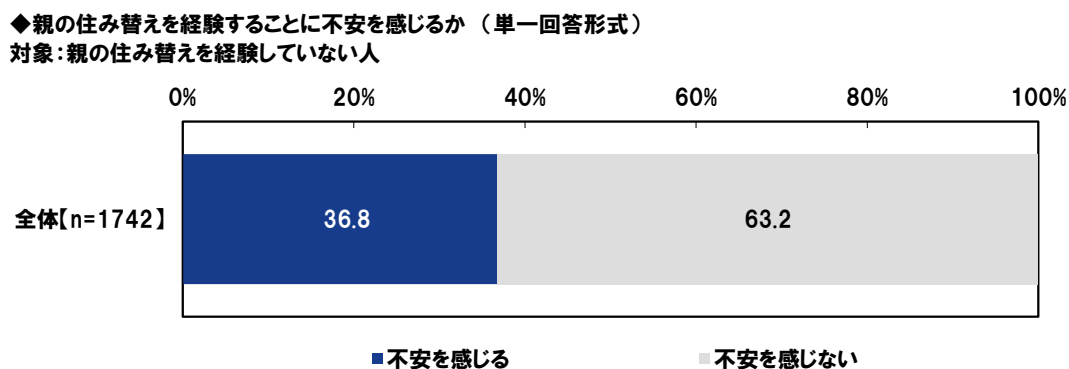
- 「親の住み替えを経験した」1割強、60代では2割、  
「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の3割半

次に、全回答者（2,000名）に、親の住み替えを経験したかを聞いたところ、「経験した」は12.9%、「経験していない」は87.1%となりました。

年代別にみると、「経験した」と回答した人の割合は、上の年代ほど高くなる傾向がみられ、60代では20.3%でした。

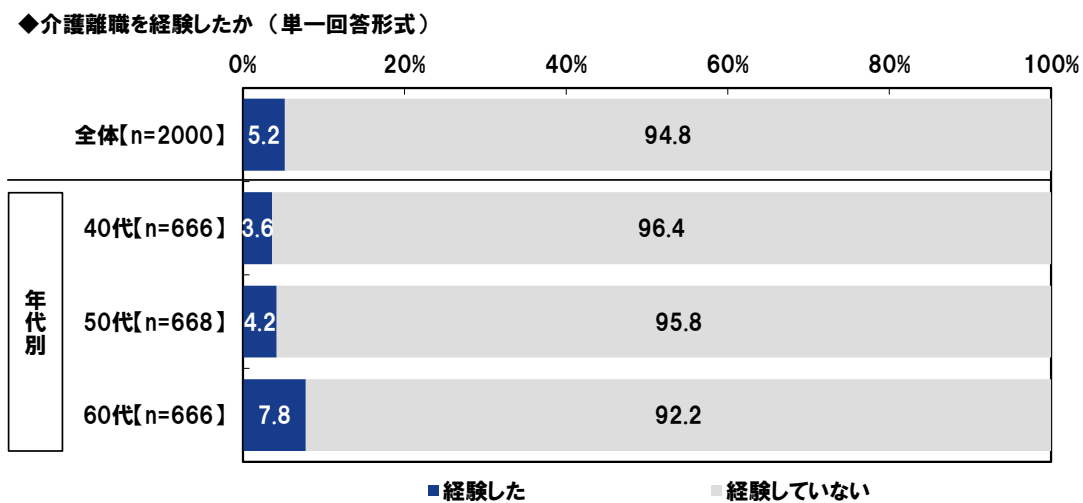


親の住み替えを経験していない人（1,742名）に、親の住み替えを経験することに不安を感じるかを聞いたところ、「不安を感じる」は36.8%、「不安を感じない」は63.2%となりました。

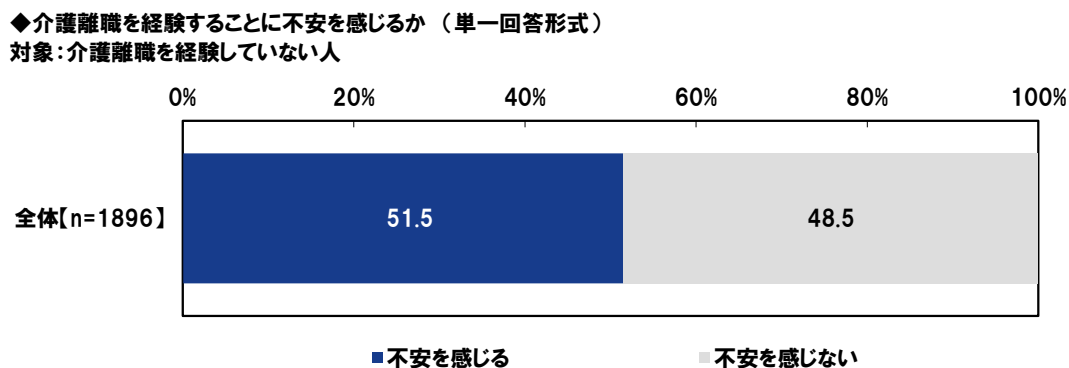


■「介護離職を経験した」1割未満、「経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の5割強

また、全回答者（2,000名）に、介護離職を経験したかを聞いたところ、「経験した」は5.2%、「経験していない」は94.8%となりました。



介護離職を経験していない人（1,896名）に、介護離職を経験することに不安を感じるかを聞いたところ、「不安を感じる」は51.5%、「不安を感じない」は48.5%となりました。



■人生 100 年時代 親の介護で不安なこと TOP2 は「精神的負担」「体力的負担」

4 人に 1 人が「介護と仕事の両立」、5 人に 1 人が「介護費用が足りない」が不安と回答

全回答者（2,000 名）に、親の介護について、不安を感じることを聞いたところ、「精神的負担」（34.8%）と「体力的負担」（34.5%）が特に高くなりました。次いで高くなったのは、「介護と仕事の両立」（25.6%）、「介護に関する情報や知識が足りない」（24.6%）、「介護費用が足りない」（21.8%）でした。介護と仕事を両立できないのではないかと、介護について知らないことが多いのではないかとといった不安を抱えている人や、金銭面で介護を続けられなくなるのではないかとといった不安を抱えている人も少なくないことがわかりました。

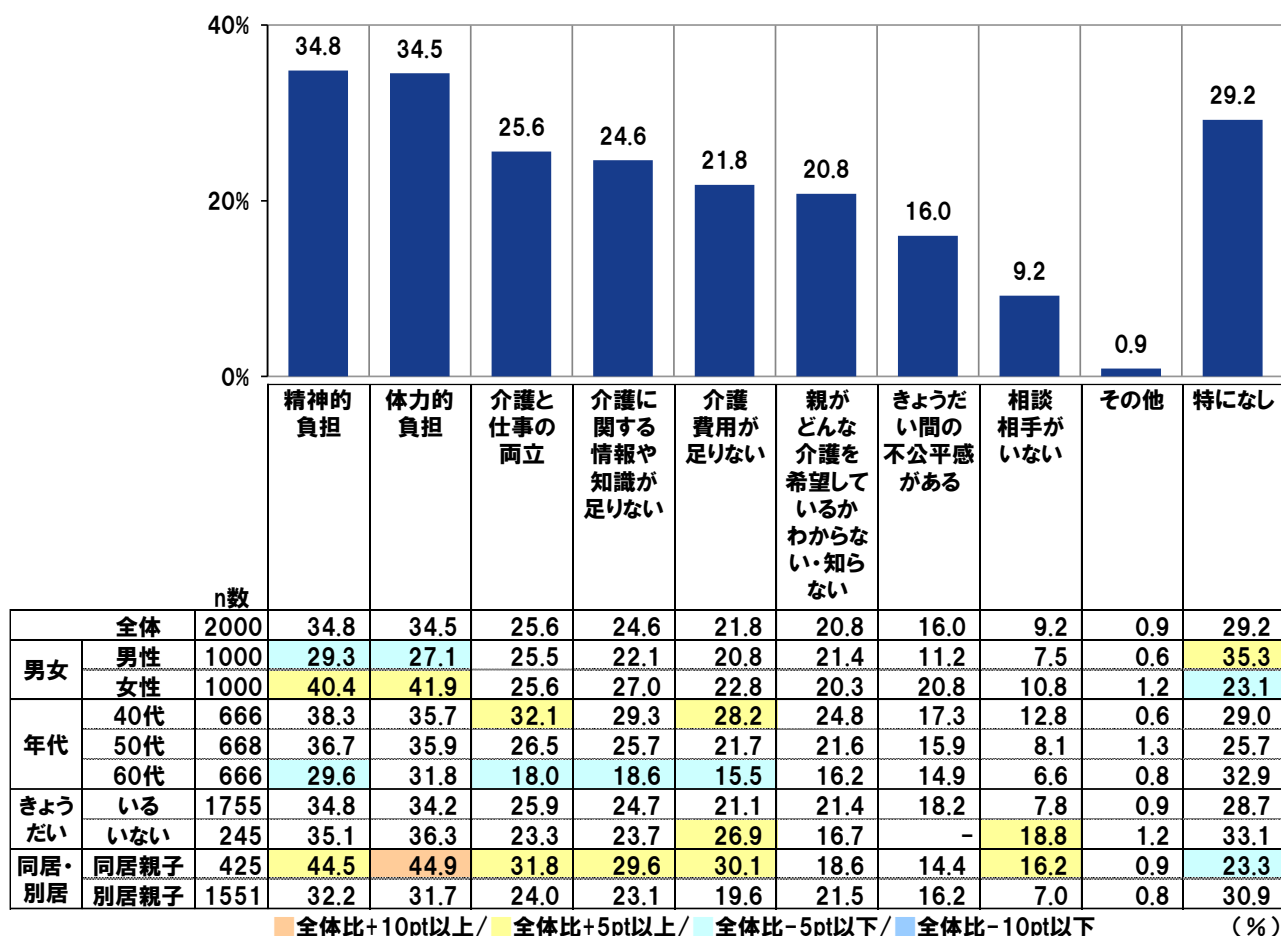
男女別にみると、男性では「精神的負担」（29.3%）、女性では「体力的負担」（41.9%）が 1 位でした。

年代別にみると、40 代では「介護と仕事の両立」が 32.1%、「介護費用が足りない」が 28.2%と、全体と比べて 5 ポイント以上高くなりました。

きょうだいの有無別にみると、きょうだいがいない人では「相談相手がない」が 18.8%と、きょうだいがいる人（7.8%）と比べて 11.0 ポイント高くなりました。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「体力的負担」が 44.9%と、全体と比べて 10 ポイント以上高くなりました。

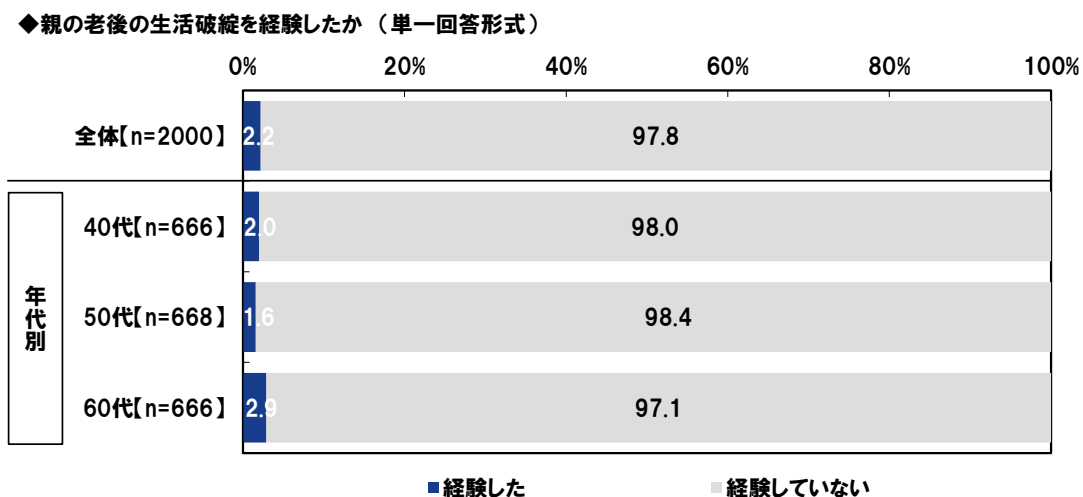
◆親の介護について、不安を感じること（複数回答形式）



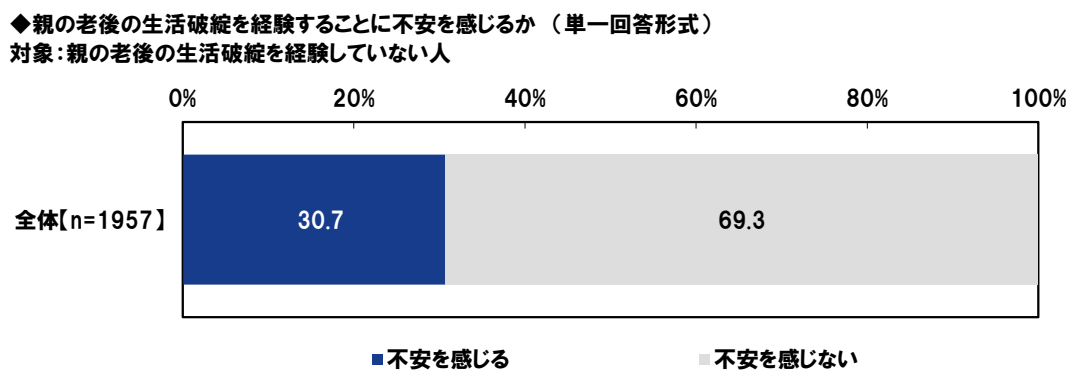
■「親の老後の生活破綻を経験することに不安を感じる」まだ経験していない人の3割

親が老後に経験する可能性のある生活破綻について質問しました。

親の老後の生活破綻を経験したかを聞いたところ、「経験した」は2.2%、「経験していない」は97.8%となりました。



親の老後の生活破綻を経験していない人（1,957名）に、親の老後の生活破綻を経験することに不安を感じるかを聞いたところ、「不安を感じる」は30.7%、「不安を感じない」は69.3%となりました。



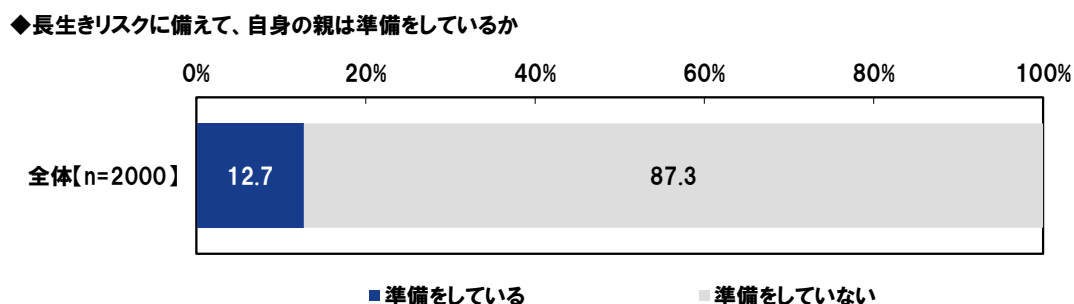


■長生きリスクに備えて親が準備していること

1位「貯蓄・資金の確保」2位「資産運用・投資」3位「年金」「保険加入」

長生きすることで、経済的に困窮するなどのリスク（いわゆる“長生きリスク”）が生じます。この“長生きリスク”に対する備えについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、長生きリスクに備えて、自身の親は準備をしているかを聞いたところ、「準備をしている」は12.7%、「準備をしていない」は87.3%となりました。親の大多数が、長生きリスクへの備えをしていないことが明らかになりました。



長生きリスクに備えて親が準備をしている人（254名）に、長生きリスクに備えて、自身の親はどのような準備をしているかを聞いたところ、1位は「貯蓄・資金の確保」となりました。老後の生活に必要な資金が不足しないよう、親自身がしっかり準備しているという人が多いようです。次いで、2位「資産運用・投資」、3位「年金」「保険加入」、5位「仕事の継続」「節約」となりました。

◆長生きリスクに備えて、自身の親はどのような準備をしているか  
（自由回答形式）※上位10位までを表示  
対象：長生きリスクに備えて親が準備をしている人

全体[n=254]

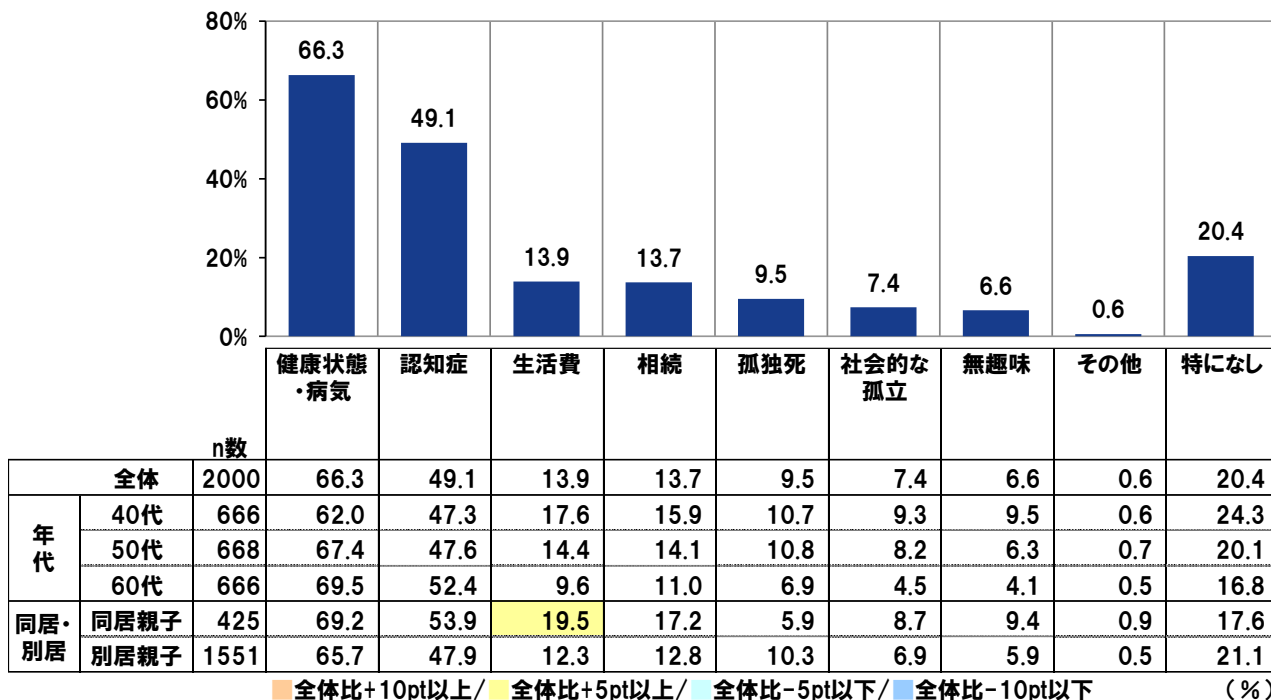
順位	準備内容	名
1位	貯蓄・資金の確保	124
2位	資産運用・投資	23
3位	年金	12
	保険加入	12
5位	仕事の継続	9
	節約	9
7位	運動・体力づくり	6
8位	介護施設入所	5
9位	健康管理	4
10位	子どもと同居	3
	持ち物の処分	3

■親の今後やサポートについて不安やリスクを感じること 1位「健康状態・病気」2位「認知症」

全回答者（2,000名）に、親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じることを聞いたところ、「健康状態・病気」（66.3%）が突出して高くなり、「認知症」（49.1%）が続きました。親が病気を患うことや認知症になることに不安やリスクを感じている人が多いようです。次いで高くなったのは、「生活費」（13.9%）、「相続」（13.7%）、「孤独死」（9.5%）でした。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「認知症」が53.9%、「生活費」が19.5%と、別居親子（順に47.9%、12.3%）と比べて5ポイント以上高くなりました。

◆親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じること（複数回答形式）



## 第5章：おとなの親子関係あれこれ

■親から独り立ちしたと感じた年齢 「20歳～24歳」が31%

「独り立ちしていないと感じている」は15%、同居親子では36%

独り立ちしていないと感じている理由 「何かと頼ってしまう」「未だに心配をかけている」など

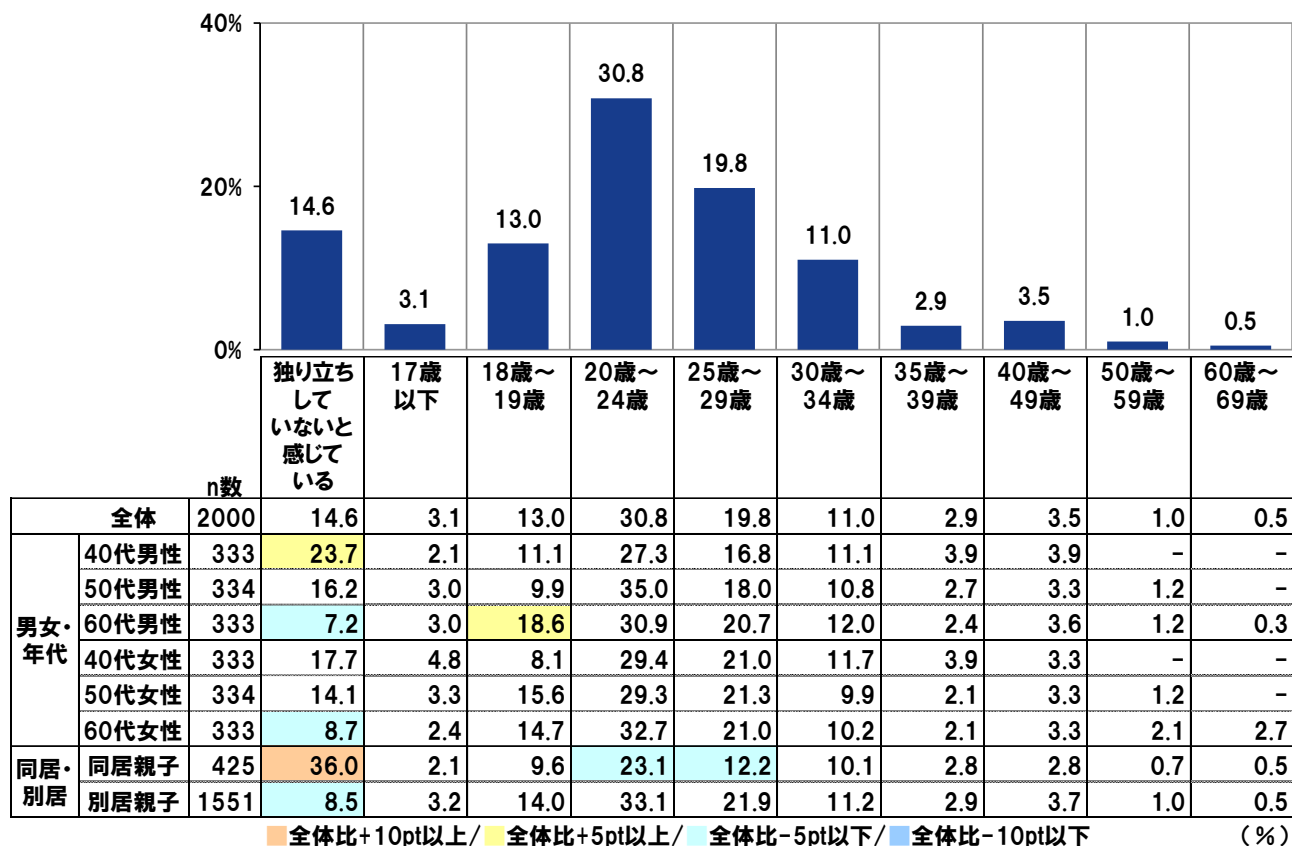
全回答者（2,000名）に、親から独り立ちしたと感じた年齢を聞いたところ、「20歳～24歳」（30.8%）に最も多くの回答が集まったほか、「25歳～29歳」（19.8%）や「18歳～19歳」（13.0%）にも回答が集まりました。他方、「独り立ちしていないと感じている」は14.6%でした。

理由をみると、「20歳～24歳」では「成人したから」「大学を卒業し就職したから」「一人暮らしを始めたから」「結婚して実家を出た歳だから」「経済的に自立したから」といった回答がみられました。また、「独り立ちしていないと感じている」では「今でも同居しているから」「何かと頼ってしまうから」「援助してもらっているから」「持病があり、未だに心配をかけているから」といった回答がみられました。

男女・年代別にみると、40代男性では「独り立ちしていないと感じている」が23.7%と、全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「独り立ちしていないと感じている」が36.0%と、全体と比べて10ポイント以上高くなりました。

◆親から独り立ちしたと感じた年齢（自由回答形式：数値/\_\_\_歳くらい）



■大人になってから親に初めてプレゼントしたもの 1位「洋服」2位「旅行」3位「食事」

親へのプレゼントについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、大人になってから親に初めてプレゼントしたものを聞いたところ、1位「洋服」、2位「旅行」、3位「食事」、4位「花」、5位「お金」となりました。

プレゼントしたもののエピソードをみると、1位の「洋服」では「兄妹で相談して初めてのプレゼントは洋服にした」「『あのコート欲しいな』と言っていたので初月給でプレゼントした」、2位の「旅行」では「いつも忙しそうなので癒しになるように贈った」「海外は初めてだったので、特に喜ばれた」、3位の「食事」では「初給料で高級寿司店に連れて行った」「就職が決まった直後にフランス料理レストランに行った」といった回答がみられました。

男女別にみると、男性では1位「食事」、2位「旅行」、3位「花」となりました。

◆大人になってから親に初めてプレゼントしたもの（自由回答形式）

※上位10位までを表示

全体【n=2000】

	名	エピソード(抜粋)
1位	洋服	152 兄妹で相談して初めてのプレゼントは洋服にした(60代女性) 『あのコート欲しいな』と言っていたので初月給でプレゼントした(60代男性)
2位	旅行	139 いつも忙しそうなので癒しになるように贈った(40代女性) 海外は初めてだったので、特に喜ばれた(60代男性)
3位	食事	133 初給料で高級寿司店に連れて行った(60代女性) 就職が決まった直後にフランス料理レストランに行った(40代男性)
4位	花	119 好きな花を事前に調べて、メッセージと一緒に渡した(40代女性) 母の誕生日に年齢の数だけバラをプレゼントした(50代女性)
5位	お金	98 現金を渡して好きな物を買うように伝えた(40代女性) 就職して、給料の一部を家に入れていた(60代男性)
6位	バッグ	64 働きづめの母にたまにはおしゃれしてほしいとプレゼントした(60代男性) 通院で使えるものを贈った(40代女性)
7位	食べ物	61 初給料で、親の好きなお菓子を買って行った(50代女性) 甘いものが好きなこともありケーキをプレゼントした(40代女性)
8位	財布	51 ポロボロだったので新しい財布をプレゼントした(50代男性) 社員旅行のお土産としてブランドの財布をあげた(40代女性)
9位	アクセサリー	39 母の誕生石のネックレスを渡した(40代男性) 母が買い物する際や外出時によくつけている(60代女性)
10位	家電	38 実家の洗濯機が古い二槽式だったので全自動洗濯機を プレゼントしたら家事の負担がかなり減ったと喜ばれた(40代男性)

男性【n=1000】

	名	名
1位	食事	60
2位	旅行	59
3位	花	56
4位	お金	48
5位	洋服	37
6位	食べ物	30
7位	お酒	26
8位	家電	25
	時計	25
10位	バッグ	18

女性【n=1000】

	名	名
1位	洋服	115
2位	旅行	80
3位	食事	73
4位	花	63
5位	お金	50
6位	バッグ	46
7位	財布	35
8位	アクセサリー	32
9位	食べ物	31
10位	スカーフ / 家電	13

■最も印象に残っている、大人になってからの親との思い出は？

「温泉旅行へ行ってお互いの理解が深まった」「結婚式で初めて見た父親の涙」など

大人になってから親と過ごした時間では、どのような経験が心に残っている人が多いのでしょうか。

全回答者（2,000名）に、親との大人になってからの思い出のうち、最も印象に残っているものを聞いたところ、「温泉旅行へ行ってお互いの理解が深まった」「足腰が弱くなる前にお正月に両親と数十年ぶりに初詣に行った」「定年退職のお祝いに北海道旅行を兄とプレゼントした」「孫が運転して三世代でドライブに行った」といった、旅行・お出かけに関する回答が多くみられました。旅先で親と一緒に過ごした経験が、忘れられない思い出になっている人が多いのではないのでしょうか。

また、「自分の結婚でハワイまで来てもらった」「結婚式で初めて見た父親の涙」「挙式の時、いつも気丈な母が初めて泣いたのが印象的だった」といった結婚・結婚式に関する回答や、「転勤先で体調が悪くなったときに来てくれた」「父親が病気で入院したとき、初めて気弱になったと感じた」といった病気・怪我・事故に関する回答、「子どもが生まれて、たくさん支援してくれた」「孫をうれしそうにあやしている顔が忘れられない」「ひ孫の誕生を喜び、成長する様子を見て一緒に笑うことができた」といった子ども・孫に関する回答などもみられました。

◆親との大人になってからの思い出のうち、最も印象に残っているもの（自由回答形式）

※抜粋して表示

全体[n=2000]

《旅行・お出かけ》

- ・温泉旅行へ行ってお互いの理解が深まった（60代女性）
- ・足腰が弱くなる前にお正月に両親と数十年ぶりに初詣に行った（60代男性）
- ・定年退職のお祝いに北海道旅行を兄とプレゼントした（40代女性）
- ・孫が運転して三世代でドライブに行った（50代女性）

《結婚・結婚式》

- ・結婚式を盛大にやってくれた（60代女性）
- ・自分の結婚でハワイまで来てもらった（40代男性）
- ・結婚式で初めて見た父親の涙（40代女性）
- ・弟の結婚式。両親への花束贈呈のときの姿は忘れられない（50代女性）
- ・挙式の時、いつも気丈な母が初めて泣いたのが印象的だった（50代女性）

《病気・怪我・事故》

- ・転勤先で体調が悪くなったときに来てくれた（50代女性）
- ・父親が病気で入院したとき、初めて気弱になったと感じた（60代男性）

《子ども・孫》

- ・子どもが生まれたときに すごく喜んでた（50代女性）
- ・出産直後、遠距離を毎日通って助けてくれた（60代女性）
- ・子どもが生まれて、たくさん支援してくれた（40代男性）
- ・孫をうれしそうにあやしている顔が忘れられない（60代女性）
- ・高齢出産だったのだが、子どもが赤ちゃんのときたくさんかわいがってくれた（40代女性）
- ・ひ孫の誕生を喜び、成長する様子を見て一緒に笑うことができた（60代女性）

《食事・お酒》

- ・初任給で食事をご馳走した（40代男性）
- ・仕事帰りに最寄り駅で父親に会い立ち飲み屋にいった（50代男性）
- ・初めて一緒にお酒を飲んだ（60代女性）

《記念日・お祝い》

- ・きょうだいで母の古希祝いをした（50代女性）
- ・父の還暦のお祝いを兄弟でしてあげた（50代女性）
- ・ひ孫まで集まって両親の米寿の祝いできた（60代男性）

《会話》

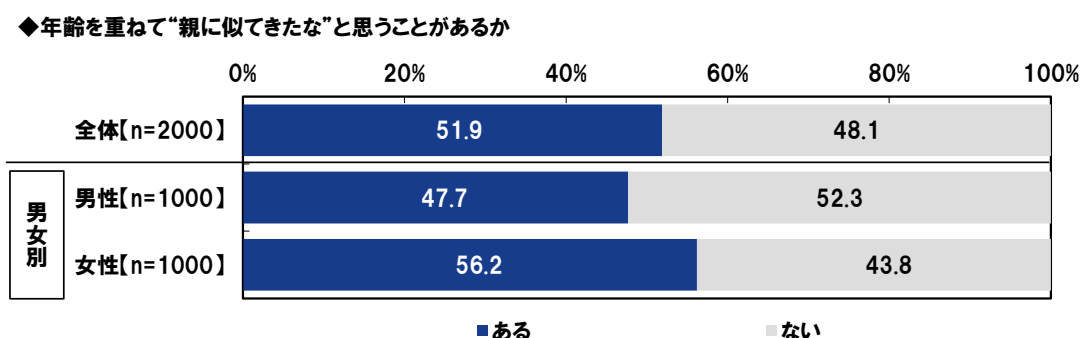
- ・施設に入ってから面会でいろいろな昔の話をした（60代女性）
- ・結婚してから、嫁としての同じ立場で話し合えた（50代女性）

■子の半数以上が「年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがある」と回答  
 年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うこと  
 1位「性格」2位「生活習慣」3位「食の好みや好きな味付け」、  
 「口ぐせ」や「怒り口調」など言葉遣いに関することも上位に

続いて、“やはり親子だな”と覚えることについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがあるかを聞いたところ、「ある」は51.9%、「ない」は48.1%と、半数以上が親に似てきたと自覚していることがわかりました。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性47.7%、女性56.2%と、男性と比べて女性のほうが8.5ポイント高くなりました。



“親に似てきたな”と思うことがある人（1,039名）に、年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことを聞いたところ、1位「性格」（35.0%）、2位「生活習慣」（27.2%）、3位「食の好みや好きな味付け」（23.5%）となりました。ふとした瞬間に、親と性格や生活習慣、食の嗜好がそっくりだと感じる人が多いのではないのでしょうか。また、「口ぐせ」（20.2%）や「怒り口調」（18.7%）など言葉遣いに関することも上位に挙がりました。

男女別にみると、男性では2位「生活習慣」（29.1%）、3位「行動パターン」（20.5%）、女性では2位「食の好みや好きな味付け」（26.3%）、3位「生活習慣」（25.6%）でした。

◆年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うこと（複数回答形式）※上位10位までを表示  
 対象：“親に似てきたな”と思うことがある人

全体[n=1039]			男性[n=477]			女性[n=562]		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1位	性格	35.0	1位	性格	36.1	1位	性格	34.2
2位	生活習慣	27.2	2位	生活習慣	29.1	2位	食の好みや好きな味付け	26.3
3位	食の好みや好きな味付け	23.5	3位	行動パターン	20.5	3位	生活習慣	25.6
4位	行動パターン	21.4	4位	食の好みや好きな味付け	20.1	4位	口ぐせ	24.0
5位	口ぐせ	20.2	5位	価値観や人生観	17.6	5位	行動パターン	22.1
6位	価値観や人生観	19.9	6位	怒り口調	17.4	6位	価値観や人生観	21.9
7位	怒り口調	18.7	7位	口ぐせ	15.7	7位	怒り口調	19.8
8位	得意なこと・苦手なこと	8.4	8位	得意なこと・苦手なこと	7.3	8位	得意なこと・苦手なこと	9.3
9位	笑い方	7.3	9位	ため息のつき方	6.7	9位	笑い方	8.2
10位	ため息のつき方	6.6	10位	笑い方	6.3	10位	笑うツボ	7.5

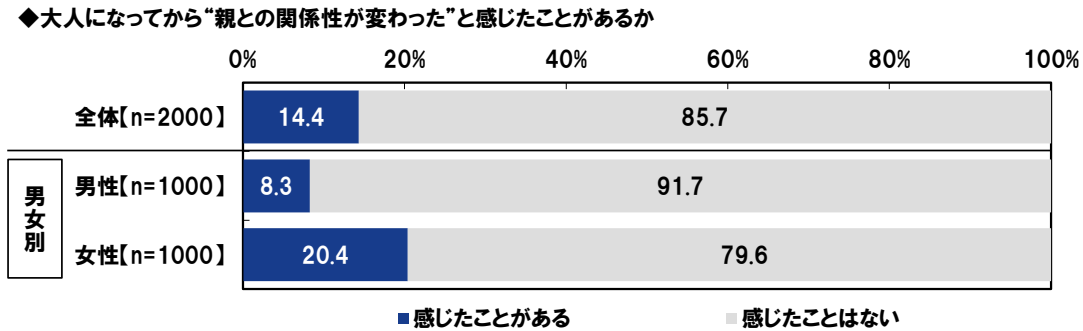


■大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたこと

「自分たちが頼られる存在になった」「距離が狭まった」「親の生き方を尊敬できるようになった」

全回答者（2,000名）に、大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがあるかを聞いたところ、「感じたことがある」は14.4%、「感じたことはない」は85.7%となりました。

男女別にみると、「感じたことがある」と回答した人の割合は、男性8.3%、女性20.4%と、男性と比べて女性のほうが12.1ポイント高くなりました。



大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人（287名）に、どのように変わったかを聞いたところ、「自分たちが頼られる存在になった」「親のサポートを受ける側からサポートする側になった」「守られる立場から支え合う立場になった」といった、立場・役割の変化に関する回答や、「若い頃は喧嘩が絶えなかったが歳をとって仲が良くなった」「子どものときは怖い存在、大人になったら飲み友達」「やや距離が狭まった気がする」といった、仲の良さ・距離感の変化に関する回答がみられました。自身が大人になって、それまでとはまた異なった関係性を築くようになったと感じている人が多いのではないのでしょうか。

また、「子どもが生まれてから親のありがたみがわかった」「親の生き方を尊敬できるようになった」「客観的に見られるようになった」など、親に対する意識や気持ちが変わったという回答や、「大人同士の話し合いができるようになった」「反対意見を言えるようになった」「いろいろ相談できるようになった」など、親子の会話の内容が変化したという回答もみられました。

◆大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたこと（自由回答形式）※抜粋して表示  
対象：大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人

全体[n=287]

《立場・役割の変化》

- ・自分たちが頼られる存在になった（50代女性）
- ・親のサポートを受ける側からサポートする側になった（60代女性）
- ・守られる立場から守るほうに変わった（60代女性）
- ・守られる立場から支え合う立場になった（60代女性）
- ・出産を機に親が祖父母の立場に変わった（60代女性）
- ・子どもができてからは同志になったような気がする（40代女性）

《仲の良さ・距離感の変化》

- ・若い頃は喧嘩が絶えなかったが歳をとって仲が良くなった（60代女性）
- ・子どものときは怖い存在、大人になったら飲み友達（50代男性）
- ・やや距離が狭まった気がする（60代女性）
- ・ある程度の距離を置くことも大事だと感じた（40代女性）

《親に対する気持ちの変化》

- ・子どもが生まれてから親のありがたみがわかった（50代女性）
- ・親の生き方を尊敬できるようになった（50代女性）
- ・客観的に見られるようになった（60代女性）
- ・感謝が常に湧くようになった（50代女性）

《会話の変化》

- ・家事の大変さがわかりよく話をするようになった（40代女性）
- ・大人同士の話し合いができるようになった（40代男性）
- ・反対意見を言えるようになった（60代女性）
- ・自分が教えるようになった（40代女性）
- ・いろいろ相談できるようになった（40代女性）
- ・対等に話すようになった（60代男性）
- ・気軽に話せなくなった（50代男性）

《親の子に対する接し方の変化》

- ・意思を尊重してくれるようになった（40代女性）
- ・干渉されなくなった（50代女性）
- ・母が優しくなった（40代男性）
- ・当たりが柔らかくなった（60代男性）

《子の親に対する接し方の変化》

- ・親を大事にするようになった（50代男性）
- ・自分が丸く優しくなった気がする（60代男性）
- ・年老いてきたのでいたわりたいと思う（60代男性）



- 親の尊敬できるところ TOP3 「真面目・誠実」「優しい」「自分を育ててくれた・子どもを育てた」
- 親の見習いたくないところ TOP3 「頑固」「わがまま・自分勝手」「怒りっぽい」

全回答者（2,000名）に、親の尊敬できるところを聞いたところ、1位は「真面目・誠実」でした。物事に真摯に取り組む親の姿に、尊敬の念を抱いている人が多いようです。次いで、2位「優しい」、3位「自分を育ててくれた・子どもを育てた」、4位「我慢強い」、5位「仕事を頑張っている・頑張った」となりました。

男女別にみると、男性・女性ともに1位は「真面目・誠実」となり、男性の2位は「優しい」、3位は「自分を育ててくれた・子どもを育てた」、女性の2位は「我慢強い」、3位は「仕事を頑張っている・頑張った」となりました。

◆親の尊敬できるところ（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]			男性[n=1000]			女性[n=1000]		
順位	内容	名	順位	内容	名	順位	内容	名
1位	真面目・誠実	119	1位	真面目・誠実	73	1位	真面目・誠実	46
2位	優しい	90	2位	優しい	57	2位	我慢強い	35
3位	自分を育ててくれた・子どもを育てた	64	3位	自分を育ててくれた・子どもを育てた	41	3位	仕事を頑張っている・頑張った	34
4位	我慢強い	56	4位	頑張り屋	24	4位	優しい	33
5位	仕事を頑張っている・頑張った	48	5位	我慢強い	21	5位	働き者	32
6位	頑張り屋	46	6位	自立している・一人で生活できる	19	6位	思いやりがある	25
7位	働き者	41	7位	仕事を頑張っている・頑張った	14	7位	自分を育ててくれた・子どもを育てた	23
8位	自立している・一人で生活できる	37	8位	長生きしている	10	8位	頑張り屋	22
9位	思いやりがある	28	9位	しっかりしている	9	9位	自立している・一人で生活できる	18
10位	前向き・ポジティブ	23	9位	働き者	9	9位	前向き・ポジティブ	18

他方、親の見習いたくないところを聞いたところ、1位「頑固」、2位「わがまま・自分勝手」、3位「怒りっぽい」、4位「掃除・片付けが苦手」、5位「自己中心的」となりました。

男女別にみると、男性では1位「頑固」、2位「わがまま・自分勝手」、3位「怒りっぽい」、4位「適当・いい加減」、5位「お酒を飲みすぎる・酒癖が悪い」「短気」、女性では1位「頑固」、2位「掃除・片付けが苦手」、3位「わがまま・自分勝手」、4位「怒りっぽい」、5位「愚痴が多い」「自己中心的」でした。

◆親の見習いたくないところ（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]			男性[n=1000]			女性[n=1000]		
順位	内容	名	順位	内容	名	順位	内容	名
1位	頑固	66	1位	頑固	31	1位	頑固	35
2位	わがまま・自分勝手	45	2位	わがまま・自分勝手	23	2位	掃除・片付けが苦手	30
3位	怒りっぽい	34	3位	怒りっぽい	14	3位	わがまま・自分勝手	22
4位	掃除・片付けが苦手	32	4位	適当・いい加減	10	4位	怒りっぽい	20
5位	自己中心的	23	5位	お酒を飲みすぎる・酒癖が悪い	9	5位	愚痴が多い	15
6位	人の話を聞かない	21	5位	短気	9	5位	自己中心的	15
7位	愚痴が多い	20	7位	自己中心的	8	7位	悪口を言う	14
7位	短気	20	8位	人の話を聞かない	7	7位	人の話を聞かない	14
9位	悪口を言う	19	9位	真面目	6	7位	無駄遣いをする・お金のルーズ	14
9位	無駄遣いをする・お金のルーズ	19	10位	だらしない	5	10位	短気	11
			10位	悪口を言う	5			
			10位	愚痴が多い	5			
			10位	無駄遣いをする・お金のルーズ	5			
			10位	優柔不断・決断力がない	5			

■これからしたい親孝行 TOP3 「会いに行く・顔を見せる」「旅行をする」「話をする・話を聞く」

親孝行について質問しました。

全回答者（2,000名）に、これから親孝行としてしたいことを聞いたところ、1位は「会いに行く・顔を見せる」でした。元気な顔を見せて一緒に時間を過ごすことで、親に喜んでもらいたいと考える人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「旅行をする」、3位「話をする・話を聞く」、4位「一緒に食事をする・ご馳走する」、5位「介護をする」となりました。

男女別にみると、男性では1位「旅行をする」、2位「会いに行く・顔を見せる」、3位「一緒に食事をする・ご馳走する」「介護をする」となりました。

◆これから親孝行としてしたいこと（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	会いに行く・顔を見せる	296
2位	旅行をする	281
3位	話をする・話を聞く	95
4位	一緒に食事をする・ご馳走する	86
5位	介護をする	85
6位	一緒に過ごす	63
7位	身の回りの世話・手伝いをする	50
8位	金銭的な援助をする	43
9位	健康でいる・元気である	35
10位	帰省する	31

男性[n=1000]

		名
1位	旅行をする	142
2位	会いに行く・顔を見せる	117
3位	一緒に食事をする・ご馳走する	42
	介護をする	42
5位	話をする・話を聞く	40
6位	一緒に過ごす	27
7位	身の回りの世話・手伝いをする	23
8位	金銭的な援助をする	22
9位	プレゼントをする	15
10位	健康でいる・元気である	14
	長生きする	14

女性[n=1000]

		名
1位	会いに行く・顔を見せる	179
2位	旅行をする	139
3位	話をする・話を聞く	55
4位	一緒に食事をする・ご馳走する	44
5位	介護をする	43
6位	一緒に過ごす	36
7位	身の回りの世話・手伝いをする	27
8位	金銭的な援助をする	21
	健康でいる・元気である	21
10位	帰省する	19

■理想の『おとなの親子』だと思う芸能人親子は？

2年連続1位は「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」、2位は「関根 勤さん&関根 麻里さん」  
理由は「お互いに尊重しているように見える」「友達のように仲が良い」など

理想の『おとなの親子』をテーマに、イメージに合う芸能人やアニメについて質問しました。

まず、全回答者（2,000名）に、自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）を聞いたところ、テレビ番組やイベントなどで度々親子のエピソードを披露している「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」が1位となり、2位「関根 勤さん&関根 麻里さん」、3位「明石家 さんまさん&IMALUさん」、4位「渡辺 謙さん&杏さん」、5位「ヒロミさん&小園 凌央さん」と続きました。

理想の芸能人親子として挙げた理由をみると、「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」では「お互いに尊重しているように見える」「親子で常に話し合っていそう」「お互いに愛情たっぷり接している感じがする」、「関根 勤さん&関根 麻里さん」では「友達のように仲が良い」「どちらもとても性格が優しそう」、「明石家 さんまさん&IMALUさん」では「適度な距離感で生活している」「それぞれが自立している」といった回答がありました。

前回の調査結果とあわせてみると、「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」が2年連続1位、「関根 勤さん&関根 麻里さん」が2年連続2位となりました。

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子(1組) (自由回答形式) ※上位10位までを表示  
全体[n=2000]

	名	理由(抜粋)
1位	高橋 英樹&高橋 真麻	177 お互いに尊重しているように見える / 親子で常に話し合っていそう / お互いに愛情たっぷり接している感じがする
2位	関根 勤&関根 麻里	74 友達のように仲が良い / どちらもとても性格が優しそう
3位	明石家 さんま&IMALU	29 適度な距離感で生活している / それぞれが自立している
4位	渡辺 謙&杏	24 それぞれの生活が素敵 / それぞれが世界で活躍し、良い距離感で親子を楽しんでいる
5位	ヒロミ&小園 凌央	16 威厳を持って子どもに接している / 子どもの自由を尊重していて親子関係がしっかりしている
	三浦 友和&三浦 祐太郎・三浦 貴大	16 過干渉になっていない / 両親をリスペクトしながらも自分のやりたい仕事をしている
7位	木村 拓哉&Cocomi・Kōki,	12 やはり家族全員がスター / 互いに好きな道で頑張っている
8位	浜田 雅功&ハマ・オカモト	11 子どもが別の世界で成功していて良い距離感を保っている / お互いを尊重し合っている
9位	榊原 郁恵&渡辺 裕太	8 お互いを尊重している / 仲が良い
	藤岡 弘、& 天翔 愛・藤岡 真威人・天翔 天音・藤岡 舞衣	8 子どもが素直に育っている / いつでもお互いを思いやっっていそう

【2023年調査】

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子(1組) (自由回答形式) ※上位10位までを表示  
全体[n=2000]

	名		名
1位	高橋 英樹&高橋 真麻	156	6位 藤岡 弘、& 天翔 愛・藤岡 真威人・天翔 天音・藤岡 舞衣
2位	関根 勤&関根 麻里	83	7位 榊原 郁恵&渡辺 裕太
3位	ヒロミ&小園 凌央	34	8位 三浦 友和&三浦 祐太郎・三浦 貴大
4位	渡辺 謙&杏	25	9位 アニマル 浜口&浜口 京子
5位	明石家 さんま&IMALU	18	10位 松本 白鷗&松 たか子

■ “理想の親子” だと思ふキャラクターが登場するアニメは？

1位「サザエさん」2位「クレヨンしんちゃん」3位「ドラゴンボール」

理由は「言いたいことを言い合える関係」「口喧嘩をしつつも、お互いのことを思いやっている」など

また、今の自身にとって『理想の親子』だと思ふキャラクターが登場するアニメを聞いたところ、三世代同居の古き良き親子関係が描かれている「サザエさん」がダントツとなり、2位「クレヨンしんちゃん」、3位「ドラゴンボール」、4位「ちびまる子ちゃん」、5位「天才バカボン」と続きました。

挙げた理由をみると、1位の「サザエさん」では「言いたいことを言い合える関係」「三世代で仲良く暮らしている」「ほのぼのして平和を感じる」、2位の「クレヨンしんちゃん」では「親の子どもに対する愛情が伝わる」「口喧嘩をしつつも、お互いのことを思いやっている」、3位の「ドラゴンボール」では「子どもが親を尊敬している」「お互い高め合っている」といった回答がありました。

◆今の自身にとって『理想の親子』だと思ふキャラクターが登場するアニメ（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体【n=2000】

		名	理由(抜粋)
1位	サザエさん	264	言いたいことを言い合える関係 / 三世代で仲良く暮らしている / ほのぼのして平和を感じる
2位	クレヨンしんちゃん	53	親の子どもに対する愛情が伝わる / 口喧嘩をしつつも、お互いのことを思いやっている
3位	ドラゴンボール	52	子どもが親を尊敬している / お互い高め合っている
4位	ちびまる子ちゃん	33	厳しいながらも愛がありほのぼのする / 怒るときは怖いけれど大きな優しさで包んでくれている
5位	天才バカボン	32	毎日が楽しそう / 親と子が友達のような関係性
6位	ドラえもん	29	パワーバランスが良い / 優しくて思いやりがある
7位	SPY×FAMILY	13	血のつながりがないのに愛がいっぱい / お互い距離を保ちながら気遣いできている
8位	となりのトトロ	11	父親に遊び心があり、頼れる存在だと思う / 子どものことを否定せず、信じているのが伝わる
	巨人の星	11	厳しさの中にも愛情がある / 実は子どものことをよく思っている
10位	名探偵コナン	10	親も子も自立して相手を尊重している / 互いに認め合っている

注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がございます。  
また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

- ◆調査タイトル：『おとなの親子』の生活調査 2024
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする  
70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女
- ◆調査期間：2024年9月10日～9月11日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル  
(有効回答から性別×年代区分がほぼ均等になるように抽出)

(内訳)	40代	50代	60代
男性	333	334	333
女性	333	334	333

- ◆調査協力会社：ネットエイジア株式会社

## ■■会社概要■■

会社名：プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社  
代表者名：代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充  
創業：2010年4月1日  
本社所在地：東京都千代田区永田町 2-13-10  
業務内容：生命保険業  
(営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

## ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、  
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。